

スポーツ（sport）の語源および語史を再検討する

中房敏朗、ウェイン・ジュリアン、曾根純也

2018年11月29日受付 2019年1月7日受理

A Reconsideration of the Origin and History of the Word “Sport”

Toshiro Nakafusa, Julian Wayne, Junya Sone

Abstract

A reconsideration of the etymology and history of the word “sport” was conducted through a detailed examination of a wide range of historical materials. This examination yielded the following findings. (1) The theory that “sport” originates in the Latin word “dēportāre” is inconclusive. (2) It is possible that “dēportāre,” meaning “to bring” or “to convey,” acquired the meaning “enjoyment” in Vulgar Latin. (3) The earliest appearance of the Old French word “deport” dates back to around the mid-12th century, and the word was used to mean “enjoy” or “divertissement”. (4) The earliest appearance of the Anglo-Norman word “desport” dates back to around the mid-12th century, and the word was used to mean “enjoy” or “amusement”. (5) There are instances of the Anglo-Latin word “disportus” in 15th-century treaties, and the word was used to mean “diversion.” (6) In the ages of Old English and Medieval English, there were 24 words, including “disport,” that were used to mean “pleasure” or “diversion.” (7) There are 21 instances of the word “disport” in *The Canterbury Tales*. (8) The word “disport” was also borrowed by Old Scots. (9) The works of Shakespeare show, by example, how the use of “disport” decreased while the use of “sport” increased. (10) It was reconfirmed, using dictionaries dating from the 17th century onwards, that “sport” was consistently defined as “play” or “diversion.”

Keywords: Latin, Old French, Anglo-Norman, Medieval English, Old Scots

キーワード: ラテン語、古フランス語、アングロノルマン語、中英語、古スコツ語

はじめに

sportの語源および語史に関する研究には、一定の蓄積がある。すなわち、ドイツではアムスラー (Amsler, 1958)、ゾファ (Sofer, 1960)、メール (Mehl, 1966)、スペインではピエルナビエハ (Piernavieja, 1967)、オルティス (Ortiz, 2002)、オリベラ=ベトランほか (Olivera-Betrán et al., 2015)、オランダで

はライツェンほか (Luitzen et al., 2015) の研究がある。スペインやオランダにおける研究は、母国の sport の語史を綿密に究明したもので、水準も高い¹⁾。日本では岸野 (1970, 1972, 1977)、阿部 (1976, 1984, 1995, 1996, 2009)、丹羽 (1979)、小田切 (1983) の研究を挙げることができる。友添 (2015) は、岸野と阿部の研究成果をとくに評価した。岸野の研究は、先行するドイツ人の研究に依拠するものであったのに対して、阿部の研究は『オクスフォード英語辞典』(以下、*OED*) やその他の英語辞典を史料として分析した点に特色がある。友添はこうした先行研究から、sport の語源とその語義の変遷に関して、既に一定の共通理解が得られていると結論した。

日本における研究は、主に19世紀以降の英語辞典を幅広く分析することにより成果を挙げてきた。しかしながら18世紀以前に関しては、二次資料である *OED* の記述を超える考察はなく、典拠資料の限界がそのまま研究の限界となっている。sport の語源や語史については、友添もいうように一定の共通理解を既に得たことは確かだとしても、それは同時に、研究の停滞を意味している。

とはいえ、いまや研究を取り巻く環境が激変した。岸野、阿部、丹羽、小田切が研究に取り組んだ時代と比べると、現在の研究環境は各段に改善した。高速インターネットの国際的な普及と、デジタル技術の発達に伴う電子テキストの飛躍的な充実が、人文系の研究に多大な恩恵をもたらしている。むしろ20世紀以降の著作物は著作権の関係もあり電子化が遅れているとはいえ、かつては入手が困難であった19世紀以前の多くの史資料が、研究室に居ながらにして容易にアクセスできるようになったのである。

そこで本研究では、*OED* の他、多様な史資料を利用することにより、sport の語源および語史について再検討することを課題とした。その際、sport の他、古フランス語 *deporter*、アングロノルマン語 *desport*、アングロラテン語 *disportus*、古スコツ語 *disport* についても詳細に検討した。ただし、対象とする期間は18世紀以前に限定した。19世紀以降は、既に阿部らによって一定の知見が得られているからである。

なお、本文中や表中における「?」は、典拠文献に依拠したもので、年代等が不確実なことを示す。

1. sport の語源

sport の語源はラテン語 *dēportāre* に由来する。この広く流布する見解は、sport の語史を概ね次のように説明する。すなわち、「運び去る」を意味するラテン語の *dēportāre* が、古フランス語の動詞 *deporter* (*desporter* など) を経て、*disport* として中英語に入り、その後、頭音を消失して現在の sport になった、と。この見解は、日本のスポーツ研究者の間でも、一定の支持を得ている (岸野, 1970, 1972, 1977: 阿部, 1976, 1984, 1985, 1995, 1996, 2009, 2015: 佐伯, 1987: 増田, 1989: 寒川, 1992: 友添, 1988, 2015: 高橋, 2003)。しかしながら、英語学者が編纂する語源辞典等では、下記の如く、この見解を採用するものは少ない。とくに英米系の辞典や日本の辞典では、これを採用するのは、ウェブスター (Webster, 1886) を除くと、皆無である。

近代的な語源学は、主として辞典の編纂を通して発展してきたことから (ブリュケル, 1997, pp.14–19: ブランショ, 1999, pp.34–65)、まずは辞典の語源欄をサーベイする。表1は、国内外の語源辞典等において、sport (*disport*) の語源がどのように説明されてきたかを一覧表にまとめたものである。この表に収録した辞典は、もちろん既刊をすべて網羅するわけではなく、ブランショ (1999)、小島

(1999) などを手掛かりに、本稿が確認し得たものに限られる。とはいえ、近代的な語源観をもって語源辞典を編纂したスキナー (Skinner, 1671, 1689, 1691) を始め、ベイリー (Bailey, 1726, 1775)、マレーほか (Murray et al., 1897) ウェブスター (Webster, 1907) などの主要な辞典については採録した。

表1 語源辞典・英語辞典等における sport の語源の説明

辞典		sport (disport) の語源
著者 (出版年)	名称	
1 Skinner (1671)	<i>Etymologicon Linguae Anglicanae</i>	【sporte】ラテン語 disportare に由来。フランス語 disport を経て、英語に入る。現在でもフランス語 deporter、イタリア語 diportare として用いられる。
2 Skinner (1689)	<i>Gazophylacium Anglicanum</i>	【sport】イタリア語 diporto、またはフランス語 deport より。
3 Skinner (1691)	<i>A New English Dictionary Shewing the Etymological Derivation of the English Tongue</i>	【sport】イタリア語 diporto、またはフランス語 deport より。
4 Bailey (1726)	<i>An Universal Etymological English Dictionary</i>	【sport】イタリア語 diporto より。 【to sport】イタリア語 diportare より。
5 Bailey (1775)	<i>An Universal Etymological English Dictionary, 21st ed.</i>	【sport】イタリア語 diporto より。 【to sport】イタリア語 diportare より。
6 Richardson (1838)	<i>A New Dictionary of the English Language, - Combining Explanation with Etymology (vol.1)</i>	【disport】フランス語 déporter より。イタリア語では disportare。「jucunde se portare」で「みずから愉しむ」の意。
7 Richardson (1838)	<i>A New Dictionary of the English Language, - Combining Explanation with Etymology (vol.2)</i>	【sport】フランス語 déport より。イタリア語では disporto。
8 Müller (1865)	<i>Etymologisches Wörterbuch der englischen Sprache</i>	【disport】古フランス語 desporter より。
9 Donald (1867)	<i>Chambers's Etymological Dictionary of the English Language</i>	【disport】'apart' を意味するラテン語 dis と、'to carry' を意味するラテン語 porto から成る。
10 Wedgwood (1872)	<i>A Dictionary of English Etymology</i>	【sport】古フランス語 desport, déport より。イタリア語では disporto, diporto。
11 Skeat (1882)	<i>An Etymological Dictionary of the English Language</i>	【disport】'to amuse oneself' を意味する古フランス語 desporter より。語源は、ラテン語 dis- に由来する古フランス語 des- と、'carry' を意味する古フランス語 porter から成る。
12 Webster (1886)	<i>Webster's complete dictionary of the English language</i>	【disport】古フランス語 desporter, deporter より。'to carry' を意味するラテン語 portare から派生した disportare、または deportare に由来する。
13 Worcester (1888)	<i>Worcester's academic dictionary. A new etymological dictionary of the English language</i>	【disport】'diversion' を意味するラテン語 disportus に由来。'away' を意味する dis- と、'to carry' を意味する portare から成る。のちに古フランス語 desporter となり、愉しむを意味した。
14 Skeat (1893)	<i>A Concise Etymological Dictionary of the English Language</i>	【sport】'away' を意味するラテン語 dis- と、'to carry' を意味するラテン語 portare から成り、労働から離れる、または労働を止めることを意味した。古フランス語 desporter を経て、中英語 disporten として入った。
15 Findlater (1894)	<i>Chambers' s Etymological Dictionary Of The English Language</i>	【disport】ラテン語 dis に由来する古フランス語 des と、ラテン語 portare に由来する古フランス語 porter から成る。真面目な物事から離れることを意味した。
16 Murray (1897)	<i>A New English Dictionary (vol.3)</i>	【disport】語形はフランス語の des- と porter から成る。des- は英語で dis- の意、porter は、「運ぶ、下げる」を意味するラテン語の portare に由来する。
17 Kluge (1898)	<i>English Etymology</i>	【sport】「愉しむ」を意味する古フランス語 desporter より。
18 Webster (1907)	<i>Webster's International Dictionary of the English Language</i>	【disport】フランス語の接頭辞 des- (ラテン語 dis-) と porter からなる古フランス語 desporter より。
19 Anonymous (n.d.1919?)	<i>Nelson's Highroads English dictionary [electronic resource]: pronouncing and etymological</i>	【disport】フランス語 dis- と、ラテン語 portare に由来するフランス語 porter から成る。
20 Bonnaffé (1920)	<i>Dictionnaire étymologique et historique des anglicismes</i>	【sport】フランス語 desport からアングロノルマン語 disport を経て、英語 disport として入る。
21 Weekley (1921)	<i>An Etymological Dictionary of Modern English</i>	【disport】'carry away' を意味する古フランス語の desporter に由来する。
22 Dauzat (1938)	<i>Dictionnaire étymologique de la langue française</i>	【sport】「あそび、楽しみ」を意味する古フランス語 desport より。

辞典		sport (disport) の語源
著者 (出版年)	名称	
23 Shipley (1945)	<i>Dictionary of Word Origins</i>	【sport】 ‘carry away, divert’ を意味する古フランス語の desporter に由来する。
24 Drosdowski (1963)	<i>Duden Etymologie : Herkunftswörterbuch der deutschen Sprache</i>	【sport】 ラテン語 deportare に由来する。
25 Onions (1966)	<i>Oxford Dictionary of English Etymology</i>	【disport】 フランス語の des- ‘dis-(apart)’ と porter ‘to carry’ とから派生したアングロノルマン語 desporter に由来する。
26 Partridge (1966)	<i>Origins : a Short Etymological Dictionary of Modern English</i>	【disport】 中世ラテン語 disportare から、古フランス語-中フランス語 desporter を経て、中英語 desport として入る。
27 Klein (1971)	<i>Klein's Comprehensive Etymological Dictionary of The English Language</i>	【disport】 ‘to seek amusement’ を意味する古フランス語 desporter に由来。文字通り「自身を反対方向へ運ぶ」の意。フランス語 des-(フランス語・ラテン語 dis-) と porter (フランス語・ラテン語 portare) から成る。
28 Barnhart (1988)	<i>Chambers Dictionary of Etymology</i>	【disport】 古フランス語 desporter からアングロノルマン語 disporter を経て借入される。古フランス語の des- はラテン語 dis- に由来し、porter はラテン語 portare に由来する。
29 Wyld (1989)	<i>The Universal Dictionary of the English Language</i>	【disport】 フランス語 dis- と、‘to carry, bear, bring’ を意味するラテン語 portare から成る。
30 Simpson/Weiner (1989)	<i>The Oxford English Dictionary : 2nd ed. (vol.4)</i>	【disport】 語形はフランス語の des- と porter から成る。des- は英語で dis- の意、porter は、「運ぶ、下げる」を意味するラテン語の portare に由来する。
31 Ayto (1990)	<i>Dictionary of Word Origins</i>	【sport】 アングロノルマン語 desporter に由来する。語形は des- ‘away’ と porter ‘carry’ から成る。
32 Burnart (1995)	<i>Barnhart Concise Dictionary of Etymology</i>	【sport】 古フランス語の desporter ‘carry away’ に由来。アングロノルマン語 disporter ‘divert, amuse’ を経て、借入される。
33 Köbler (1995)	<i>Deutsches Etymologisches Wörterbuch</i>	【sport】 中世ラテン語 deportare から中フランス語 desporter を経て、中英語 disport として入る。
34 Dubois (1998)	<i>Dictionnaire Etymologique Et Historique Du Français</i>	【sport】 古フランス語の desport, deporter より。
35 Houghton Mifflin (2000)	<i>The American Heritage Dictionary of the English Language</i>	【disport】 des- ‘apart’ と porter ‘to carry’ (ラテン語 portare) とから成る古フランス語の desporter ‘to divert’ に由来。
36 Cresswell (2002)	<i>Oxford Dictionary of Word Origins</i>	【sport】 ラテン語の dis ‘away’ と portare ‘carry’ に由来する。
37 Gove (2002)	<i>Webster's third new International Dictionary of the English Language</i>	【disport】 フランス語の des- ‘dis-(apart)’ と porter ‘to carry’ とから成る中フランス語 desporter に由来する。
38 Hendrickson (2008)	<i>The Facts on File Encyclopedia of Word and Phrase Origins</i>	【sport】 ラテン語の des ‘away’ と porto ‘carry’ に由来する英語の disport の短縮形である。disport の原義は「仕事から離れる」の意である。
39 Picoche, J. (2009)	<i>Dictionnaire d'étymologie du français</i>	【sport】 古フランス語 desport より。
40 Stevenson (2010)	<i>Oxford Dictionary of English</i>	【disport】 des- ‘away’ と、porter ‘carry’ (ラテン語 portare より) とから派生した古フランス語 desporter に由来する。
41 —	<i>Online English Etymology</i>	【disport】 古フランス語の desporter に由来する。語形は des- ‘away’ と、ラテン語の portare ‘to carry’ に由来する porter ‘to carry’ から成る。
42 —	<i>Online language Dictionary</i>	【disport】 アングロノルマン語 desporter に由来する。語形は des- ‘dis-’ と porter ‘to carry’ から成る。
43 —	<i>Oxford living Dictionaries</i>	【disport】 des- ‘away’ と、porter ‘carry’ (ラテン語 portare より) とから派生した古フランス語 desporter に由来する。
44 —	<i>Middle English Dictionary</i>	【disport】 アングロノルマン語/中央フランス語の deport, またはアングロ・ラテン語の disportum, -us に由来する。
45 —	<i>Dictionary of the Scots Language</i>	【disport】 アングロノルマン語 disport, 古フランス語 desport に由来する。
46 —	<i>Wörterbuch Wortbedeutung.info</i>	【sport】 ラテン語 deportare から古フランス語の動詞 deporter、さらに名詞 desport, déport を経て、英語に disport として入った。
47 —	<i>Centre National de Ressources Textuelles et Lexicales</i>	【déporter】 古典ラテン語の deportare ‘emporter (take away), deporter (deport)’ に由来する。俗ラテン語にも「愉しむ」の意で伝わった。
48 —	<i>Diccionario Etymológico español en línea</i>	【sport】 ラテン語 deportare からフランス語 desporter を経て、disport として英語に入った。deportare は古典ラテン語で「追放」を意味したが、俗ラテン語で「愉しむ」を意味した。
49 中島ほか (1964)	英語語原小辞典	【sport】 アングロノルマン語 disport, 古フランス語 de(s)port より。des- ‘dis-’ と、ラテン語に由来する portare ‘to carry’ から成る。
50 下宮ほか (1989)	スタンダード英語語源辞典	【sport】 アングロノルマン語 desporter に由来。des- 「離れて、別の方向へ」 + porter 「運ぶ」。「気をそらす、まぎらす」が原義。

スポーツ (sport) の語源および語史を再検討する

辞典		sport (disport) の語源
著者 (出版年)	名称	
51 梅田 (1990)	英語の語源事典	【sport】disportから語頭音消失によって生じた語である。ラテン語dis-とラテン語portareから造語された古フランス語desporter(to seek amusement)が借入されたものであり、この言葉の原義はto carry oneself in the opposite direction,すなわちto carry oneself from one's workである。
52 寺澤 (1997)	英語語源辞典	【disport】des- 'dis' とporter 'to port' とから派生したアングロノルマン語desporter (古フランス語déporter) に由来する。原義は「自分を反対の方向へ持って行く、気を紛らす」。
53 シップリー (2009)	シップリー-英語語源辞典	【disport】ラテン語dis- (離れて) とportare (運ぶ) とから派生した古フランス語desporterが語源である。
54 太田強正 (2012)	スペイン語語源辞典	【deporte (スポーツ)】「追放する」を意味するdeportarから派生。「(気がかりなどを) 追放する」>「楽しむ」と意味的に変化した。
55 小島ほか (2013)	英語語義語源辞典	【disport】ラテン語portare (=to carry) にdis- が付いた形が古フランス語でdesporter (=to carry away : to divert) となり中英語に入った。原意の「別の所へ運ぶ」意から、気をそらせる、気分転換する、楽しませるなどの意味が派生した。

- 1 Skinner, S. (1671) *Etymologicon linguae anglicanae; seu, Explicatio vocum anglicarum etymologica ex propriis fontibus, scil. ex linguis duodecim*. Londini: Typis T. Roycroft, & prostant venales apud H. Brome [etc.]
- 2 Skinner, S. (1689) *Gazophylacium anglicanum containing the derivation of English words*. London: printed by E. H. and W. H.
- 3 Skinner, S. (1691) *A New English Dictionary Shewing the Etymological Derivation of the English Tongue*. London: printed for Timothy Childe.
- 4 Bailey, N. (1726) *An Universal Etymological English Dictionary, comprehending the derivations of the generality of words in the English tongue*. London: printed for J. Darry, [etc.]
- 5 Bailey, N. (1775) *An Universal Etymological English Dictionary, comprehending the derivations of the generality of words in the English tongue*. 21st edition. London: printed for R. Ware, [etc.]
- 6 Richardson, C. (1838) *A New Dictionary of the English Language, Combining Explanation with Etymology*. vol. 1. London: William Pickering.
- 7 Richardson, C. (1838) *A New Dictionary of the English Language, Combining Explanation with Etymology*. vol. 2. London: William Pickering.
- 8 Müller, E. (1865) *Etymologisches Wörterbuch der englischen Sprache*. 2 theile. Cöthen: P. Schettler.
- 9 Donald (1867) *Chambers's Etymological Dictionary of the English Language*. London and Edinburgh : W. & R. Chambers.
- 10 Wedgwood, H. (1872) *A Dictionary of English Etymology*. London : Trübner & co.
- 11 Skeat, W. W. (1882) *An Etymological Dictionary of the English Language*. Oxford : Clarendon Press.
- 12 Webster, N. (1886) *Webster's Complete Dictionary of the English Language*. London : George Bell & Sons.
- 13 Worcester, J. E. (1888) *Worcester's academic dictionary. A new etymological dictionary of the English language*. Philadelphia: J. B. Lippincott company.
- 14 Skeat, W. W. (1893) *A Concise Etymological Dictionary of the English Language*. New York: Harper & brothers.
- 15 "Findlater, A. (1894) *Chambers's Etymological Dictionary of the English Language*. London and Edinburgh: W. & R. Chambers.
- 16 Murray, J. A. H. et al. (1897) *A New English Dictionary*. vol. III. Oxford: Clarendon Press.
- 17 "Kluge, F. (1898) *English etymology*. Strassburg: Karl J. Trübner.
- 18 Webster, N. (1907) *Webster's International Dictionary of the English Language*. 2 vols. London: George Bell & Sons.
- 19 Anonymous(n. d. 1919?) *Nelson's Highroads English Dictionary Pronouncing and Etymological*. London: Thomas Nelson & Son.
- 20 Bonnafe, E. (1920) *Dictionnaire Etymologique et Historique des anglicismes*. Paris: Delagrave.
- 21 Weekley, E. (1921) *An Etymological Dictionary of Modern English*. London: J. Murray.
- 22 Dauzat, A. (1938) *Dictionnaire Etymologique ue Langue Française*. Paris: Librairie Larousse.
- 23 Shipley, J. T. (1945) *Dictionary of Word Origins*. New York: Philosophical Library.
- 24 Drosdowski, G. (1963) *Duden Etymologie : Herkunftswörterbuch der deutschen Sprache*. Mannheim: Bibliographisches Institut.
- 25 Onions, C. T. (1966) *Oxford Dictionary of English Etymology*. New York: Oxford University Press.
- 26 Partridge, E. (1966) *Origins: a Short Etymological Dictionary of Modern English*. London: Routledge & Kegan Paul.
- 27 Klein, E. (1971) *Klein's Comprehensive Etymological Dictionary of The English Language*. Amsterdam: Elsevier Science.
- 28 Barnhart, R. K. (1988) *Chambers Dictionary of Etymology*. London: Chambers.
- 29 Wyld, H. C. (1989) *The Universal Dictionary of the English Language*. Hertfordshire: Wordsworth Edition.
- 30 Simpson, J. A. and Weiner, E. S. C. (1989) *The Oxford English Dictionary, 2nd ed.* 20 vols. Oxford: Clarendon Press.
- 31 Ayto, J. (1990) *Dictionary Word Origins*. New York: Arcade Publishing.
- 32 Barnhart, R. K. (1995) *The Barnhart Concise Dictionary of Etymology*. New York: HarperCollins.
- 33 Köbler, G. (1995) *Deutsches Etymologisches Wörterbuch*. Tübingen: J. C. B. Mohr UTB.
- 34 Dubois, J. et al. (1998) *Dictionnaire Etymologique Et Historique Du Français*. Paris: Larousse.
- 35 Houghton Mifflin(2000) *The American Heritage Dictionary of the English Language*. Boston: Houghton Mifflin.
- 36 Cresswell(2002) *Oxford Dictionary of Word Origins*. New York: Oxford University Press.
- 37 Gove, P. B. (2002) *Webster's Third New International Dictionary*. Massachusetts: Merriam-Webster.
- 38 Hendrickson, R. (2008) *The Facts on File Encyclopedia of Word and Phrase Origins. 4th ed.* New York: Facts On File.
- 39 Picoche, J. (2009) *Dictionnaire d'étymologie du français*. Paris: Le Robert
- 40 Stevenson(2010) *Oxford Dictionary of English. 3rd edition*. Oxford: Oxford University Press.
- 41 *Online English Etymology* (<https://www.etymonline.com/>)
- 42 *Online language Dictionary* (<http://www.wordreference.com/>)
- 43 *Oxford living Dictionaries* (<https://en.oxforddictionaries.com/>)
- 44 *Middle English Dictionary* (<https://quod.lib.umich.edu/m/med/>)
- 45 *Dictionary of the Scots Language* (<http://www.dsl.ac.uk/>)
- 46 *Wörterbuch Wortbedeutung. info* (<https://www.wortbedeutung.info/>)
- 47 *Centre National de Ressources Textuelles et Lexicales* (<http://www.cnrtl.fr/>)
- 48 *Diccionario Etimológico español en línea* (<http://etimologias.dechile.net/>)
- 49 中島文雄・寺澤芳雄編 (1962) 英語語原小辞典. 研究社.
- 50 下宮忠雄・金子貞雄・家村睦夫編 (1989) スタンダード英語語源辞典. 大修館書店
- 51 梅田修 (1990) 英語の語源事典 : 英語の語彙の歴史と文化. 大修館書店.

- 52 寺澤芳雄編（1997）英語語源辞典、研究社。
 53 シップリー：梅田修ほか訳（2009）シップリー英語語源辞典、大修館書店。
 54 太田強正（2012）スペイン語語源辞典、春風社。
 55 小島義郎・岸曉・増田秀夫・高野嘉明編（2013）英語語義語源辞典、三省堂。

一見して明らかなように、sportの語源に関しては、一致した見解がなく、辞典によってまちまちである。時系列的にみても、ある一定の見解に収斂していく様子も見られない。それにもかかわらず、岸野（1972, 1977）は、sportの語源はラテン語dēportāreであるとあたかも決定済みであるかのように主張した。阿部（1976, 2015）もまた、OEDだけに依拠して、sportの語源をラテン語dēportāreとするのが定説である、と断じている。だが、そのOEDでさえも、sportの語源をdēportāreとしていないのである。

そもそも語源とは何か。ブランショ（1999, pp.81-82）は「語源語」と「語根」を区別し、語単位によって最も古い時期に文証される形態のものを語源語とし、発生論的にみて再構成された（必ずしも文証できるとは限らない）ものを語根とした。これによれば、ある語の語源語とは、語源とされる語から後代にある語が派生したことを確実に文証できる、最も早期の形態を意味する。それでは、sportの語源語として文証できる、最も早期の形態とは何なのか。これについては、語学の専門家の間でも、恐らく確実な「文証」という点で、見解が分かれるのであろう。

sportという語が中英語disportの頭音消失であることは、見解が一致している。英語学者のブラッドリー（Bradley, 1904, p.152）、ウィークリー（Weekley, 1912, p.65）は、同様の例としてspite（<despite）、stain（<distain）、splay（<desplay）、strain（<destrain）を挙げた。つぎに、このdisportの由来については、立場が分かれる。大きくは、ラテン語から説き起こす立場と、古フランス語から説き起こす立場とに分かれる。その他、アングロノルマン語、中央フランス語、アングロラテン語から説き起こす立場もある。18世紀までは、近代的な語源辞典を初めて編纂したスキナー（Skinner, 1671, 1689, 1691）が、ラテン語の直系ともいえるイタリア語のdiportoやdiprotareを語源と見なしたこともあって、この見解がしばらく踏襲されたが、19世紀以降の語源学の発達に伴い斥けられた。

中英語disportが古フランス語からの借入とする点は、既に見解が一致している。中英語期（1150-1500年）は、イングランドを征服したノルマン人がフランス語を公用語としたことから、英語の中に大量のフランス語の語彙が入り込んだ。ボーほか（1981, pp.208-209）は、この時期のフランス語からの借入語が、統治・行政、教会、法律、軍事に関わる分野に止まらず、余暇生活の分野にも及ぶことを指摘し、recreation、solace、jollity、leisure、dance、carol、music、chess、joust、tournamentなど、また狩猟や乗馬に関わるforest、park、falcon、ambler、curb、crupper、rowel、trotなどを例示した。もちろんdisportもその1語である。なお、スポーツ史家のトマ（Thomas, 1991, p.15：邦訳, 1993, p.19）は、disportが騎士道との関連でフランスからイングランドにもたらされたとみている。

中英語disportは、具体的には古フランス語deportの借入である。deportは名詞であるが、辞典によってはその動詞deporter（またはdesporter）から説き起こすものもある。deportにしろ、deporterにしろ、いずれも語根がportであり、これに接頭辞des-を伴って派生した語であるとする点は、大方の見解が一致する。わずかに接頭辞をdis-とするものもあるが、これは派生語の語形がdeport（deporter）であることから、dis-ではなくdes-が正しいと見てよいであろう。

sportが古フランス語deport（またはdesport）に由来するとして、最終的な語源語をこの語に見る慎重な立場と、さらに遡ってラテン語に求める立場とに分かれる。ただし、語源語を古フランス語にみる立場であっても、接頭辞と語根のどちらか、あるいは双方についてラテン語からの由来を説く見解もあり、英米系の辞典や日本の辞典ではこの見解を提示するものが多い。日本のスポーツ研究者がしばしば参照するOEDも、この見解を採用する²⁾。

OEDは、日本のスポーツ研究者の間でも参照されることが多く、ここで再確認する。OEDの初版は1884-1928年であり、1989年に第2版が刊行されたが、sport (disport) の語源欄に変更はない。現在はオンライン版もあるが、一部表記の変更以外に、内容に関わる変更はない。sport の語源については、もちろんsportの項よりもdisportの項が詳しい。disportには名詞と動詞があり、OEDはそれぞれ次のように説明する。なお、disportの語源欄ではdeportへの参照を指示しているので、deportの項も併せて訳出する。〔 〕は筆者による補筆である。

disport (名詞) 《古》語形は14-15世紀にdesport、15世紀にdysportと変化した。アングロノルマン語disport、古フランス語desportからの借入である。通常はdeport。Cotgrave〔仏英辞典、1611年〕はdeportに「気散じ、気慰み、暇つぶし、娯楽、楽しみ」の意を与える。フランス語のdesporterは、次項を見よ。語義5〔廃義：下げる、運搬、振る舞い〕はdeport (名詞) を参照のこと。

disport (動詞) 語形は14-15世紀にdesporte、15-16世紀にdysport、15世紀以降にdisportと変化した。アングロノルマン語のdesporter (Bozon〔14世紀の修道士・作家に用例〕)、古フランス語のdesporter、deporterからの借入である。Godefroy〔古フランス語辞典、1881-1902年〕はdeporterに「気をそらす、楽しむ、喜ばせる」の意を与える。Cotgrave〔仏英辞典、1611年〕はdeporterの再帰用法として「終える、がまんする、止める、諦める；また、楽しみにふける、あそぶ、英気を養う、時間をつぶす」の意を与えた。語形はフランス語のdes-とporterから成る。des-は英語でdis-〔反対、逆、分離など〕の意、porterは、「運ぶ、下げる」を意味するラテン語のportareに由来する。そこから「気をそらす、楽しむ」の意味になった。同様の経過を辿った例として、フランス語のdivertir〔楽しませる〕やdéduire〔差し引く〕がある。原義は、真面目な物事や悲しみから、気をそらす、引き離す、運び去るといった考え方から。

deport (動詞) 語義I〔廃義：耐える、控えるなど〕は、古フランス語deporter (現代フランス語déporter) より。de- (De-I.1 or 3 [down]) と、運ぶを意味するporterから成る。語義II〔運び去る、追放するなど〕は、ラテン語déportareの借入である現代フランス語déporterより。de- (De-I.2 [away]) と、運ぶを意味するporterから成る。Darmesteter〔フランス語辞典、1895年〕は、フランス語において、2つの語義の分岐を、歴史的に異なる語として扱う。

OEDの刊行後、英語圏や日本の辞典では、このOEDの見解を概ね踏襲する。日本で最大の語源辞典『英語語源辞典』(寺澤, 1997) でも、OEDに準拠する。すなわち、英語disportはアングロノルマン語desporter (フランス語déporter) に由来する。語形はdes-とporterから成る。原義は「自分を反対の方向に持って行く、気を紛らす」とした。ここで原義を「運び去る」ではなく、「反対の方向に持って行く」と示した点が、この辞典の特色である。同辞典において接頭辞dis-は、品詞によって異なる意味を表し、動詞に添加する場合には「反対」の意を表すとした。disportの語源も、これに対応させたといえる。

つぎに、最終的なsportの語源語をラテン語に遡る立場を検討する。これには、disportareとdéportareの2つの見解がある。ウースター (Worcester, 1888) は例外的にdisportusとしたが、これを支持する

他の辞典はなく、また100年以上前の記述なので、ここでは割愛する。ただし同じ語形のアングロラテン語 *disportus* は重要であり、後で検討する。

それでは、*sport* の語源語として *disportare* と *déportare* のどちらが妥当なのか。前者の *disportare* を採用するのは英米系の辞典である (Skinner, 1671 : Richardson, 1838 : Webster, 1886 : Partridge, 1966)。ただし、1970年代以降は見られない。それに対して後者の *déportare* を採用するのは、非英語圏の辞典に多い (Drosdowski, 1963 : Köbler, 1995 : *Wörterbuch Wortbedeutung. info : Centre National de Ressources Textuelles et Lexicales* [フランス国立文章及び辞典リソースセンター : 以下、*CNRTL*] : *Diccionario Etymológico español en línea* [スペイン語語源辞典online : 以下、*DEEL*])。

日本では岸野 (1970, 1972, 1977)、高橋 (2003) が *sport* の語源語を *déportare* とした。これは、ドイツ語の文献に依拠したことに依る。ドイツ語圏において *déportare* 説が優勢なのは、日本の広辞苑に相当する、ドゥーデンの規範的な語源辞典 (Drosdowski, 1963) が *déportare* 説を採用したからであろう。他方、スポーツ学者として著名なメール (Mehl, 1966) が、体育専門誌に「*sport* は *dis-portare* ではなく *de-portare* に由来する」という小論を寄せて、*déportare* 説の妥当性を主張すると共に、それまでアムスラー (Amsler, 1958)、ゾファ (Sofer, 1960) らによって支持された *disportare* 説を斥けたということもある。メールは、言語学の法則、すなわち古フランス語において語根がなお固有の語と認識されている場合、接頭辞 *de-* が *des-* に置き換えられることを根拠に、「*de-portare*」を語根語として推定することが妥当であることを主張したのである。

なお、ピエルナビエハ (Piernavieja, 1967) は、慰みを意味するカステーリャ語 (中世スペイン語) の *deporte* (1140年から1207年に成立した『わがシッドの歌』に初見) の語源語を、ラテン語 *deportare* とした。他方、『スペイン語語源辞典』 (太田, 2012) は独自の見解を示した。すなわちスペイン語 *deporte* は「追放する」を意味するラテン語 *deportar* に由来し、「(気がかりなどを) 追放する」ことから「楽しむ」の意を生じたとする。

以上を小括する。*sport* の語源に関する見解には、競合する複数の説がある。日本のスポーツ研究者によって支持されるラテン語 *déportare* を語源とする説は、非英語圏の辞典で支持される傾向にあり、有力な説の1つではある。ただし、競合する他の見解を積極的に斥けるものではない。一方、*OED* をはじめとする英米系の辞典では、*sport* の語源を古フランス語 *desporter* ないし *deporter* から説き起こす。その際、この語が接頭辞 *des-* と *porter* が結びついた派生語であり、また *porter* が「運ぶ」を意味するラテン語 *portare* に由来することについては、意見の一致を見ている。

2. ラテン語 *déportare* の語義

sport が「運ぶこと、追放」を意味するラテン語 *déportare* に由来するとして、かかる *déportare* から後の *sport* に至る一連の語史において、いったいどの段階で「気晴らし、楽しみ」の意を獲得したのか。阿部 (1984, pp.122-123)、友添 (1988, p.10) は、「物理的・空間的な移動」を指示した *déportare* が、しだいに「精神的・内面的な移動」の次元にも適用の範囲を広げた結果、「気晴らし、楽しみ」の語義を獲得したと指摘した。その指摘は正しい。しかし問題は、その時期が特定されていないことである。日本では、スポーツ庁のような官公庁だけではなく、スポーツの専門家の間でも、*déportare* は「気晴らし、楽しみ」を意味したとの主張が見られる (出村ほか, 2000, p.14 : 玉木, 2013, p.95 : 細谷,

2014, p.1 など)。しかし、下記の如く、それは正しくない。以下の行論では、ラテン語 *dēportāre* の語義を改めて検討していく。

dēportāre の語根は *portō* である。この *portō* から、「～から（下へ、離れて）」を意味する接頭辞 *dē-* を伴って派生した語が、*dēportō* である。*portō* は「運ぶ、行く、堪える」を意味する動詞であるから、その派生語 *dēportō* もやはり動詞である。*dēportō* は、下記のように「運ぶ、持ち帰る、追放する」を意味した。そして、この *dēportō* の不定法（現在・能動態）が、*dēportāre* となる。ここでいう不定法とは、英語の不定詞と同様に、ラテン語で動詞を名詞として扱う時に用いられるものである。ただし英語とは異なり、ラテン語の不定法には時制や態による語形の変化がある。*amō*（愛する）であれば、その不定法・能動態・現在が *amāre* となり、*narrō*（話す）であれば、その不定法・能動態・現在が *narrāre* となる。したがって *dēportāre* はあくまでも *dēportō* の語義を維持したまま名詞（能動態・現在）として扱われるものであり、そこから直ちに「気晴らし、楽しみ」の意味を派生するわけではない。

それでは *dēportāre* の語義は何か。現代の辞典で確認すると、*dēportāre* の項はなく、*dēportō* の項が記載される。『古典ラテン語および中世ラテン語-英語辞典』（Calvalho, 1879）は、次のように説明する。1：運ぶ、下ろす、運び去る、2：地方から持ち帰る、連れ戻す、3：追放する、輸送する。『オクスフォード・ラテン語辞典』（Glare, 2012）では、次の通り。1：（目的地へ）持って行く、運ぶ、2：地方からローマ（または故国）へ戻る、家へ持ち帰る、3：（国外の流刑地へ）追放する、輸送する。日本の辞典でも同様である。『古典ラテン語辞典』（國原, 2005）では、次の通り。1：（目的地へ）持って行く、運ぶ、移す、向こう岸へ渡す、持参（運搬）する、2：持って家へ帰る、帰国する、運び帰す、3：持ち去る、押し流す、4：（流刑地へ）流す、送る。

以上から、阿部や友添の指摘の通り、*dēporto* は「物理的、空間的な移動」の要素によって意味づけられていたといえる。しかし、ここに「気晴らし、楽しみ」の意味はない。

とはいえ、*dēportāre* に「気晴らし、楽しみ」の意を欠くからといって、*sport* の語源語を *dēportāre* とする見解までも直ちに斥けることはできない。というのも、「取り込む、はらむ（妊娠する）」を意味したラテン語 *concipere* がのちに「概念」を意味する英語 *concept* になったように、具体的な行為を意味する語から抽象的・心理的な意味の語が生じることは、珍しくないからである（ヘルマン, 1971, p.113）。

ただし、かりに *sport* の語源語を *dēportāre* とするにしても、なお一つの課題がある。これまで特に指摘されなかったが、このことについて説明しておこう。

じつは同じ英語の中に、確実に *dēportāre* を語源とする語が、*sport* の他に存在する。*deport* である。*deport* は学習辞典にも所載される普通語で、語義は「国外に追放する、身を処す」である。*OED* ははじめ多くの辞典が、*deport* の語源を *dēportāre* と明記する。*deport* は、「運ぶ、追放する」を意味するラテン語 *dēportāre* の語義を留めており、なおかつ語形の点でもラテン語の綴りと相似する。かりに *sport* も同じ *dēportāre* を語源語とするのであれば、その後 *sport* だけではなく、どうして *deport* と *sport* の2種類の語（二重語）が派生したのか。二重語が派生する要因は、一般には借入の時代の違いや借入の経路の違いが考えられる。この *dēportāre* のケースでは、どちらに該当するのか。*sport* の語源語を *dēportāre* と認めるのであれば、同じ語源語からなぜ異なる2つの語が英語に派生したのかを論理的に説明する必要があるのに、この問題が指摘されずに放置されたままなのである。

なお、日本では紹介されていないが、*CNRTN*と*DEel*が興味深い見解を示している（表1）。すなわち、*dēportāre*は俗ラテン語において「楽しむ」の意を持つとした。俗ラテン語とは、書記言語として発達した古典ラテン語に対して、主に民衆の間で交わされた話し言葉のことである。「運ぶ、持ち帰る、追放する」を意味したラテン語 *dēportāre* が、いつどの段階で「楽しむ」の意を派生したのかは詳らかではない。しかし、ここでは俗ラテン語に求める立場を明確にした。この立場に立つと、「運ぶ」という具体的な行為を表す語が「気持ちを移す」という心理的な意を派生したのは、ローマの民衆の砕けた会話にあった、との解釈が可能になる。さらに、この立場が特に興味深いのは、以下の事例もこれによって説明できるからである。

俗ラテン語は、ローマ帝国の各地の本来語と混交しながら少しずつ分化して、ポルトガル語、スペイン語、イタリア語、フランス語、ルーマニア語などのロマンス語を派生した。スペインのスポーツ学者、オリベラ＝ベトランほか（Olivera-Betrán, 2015, p.5）は、初期のロマンス語において、互いに関連をもつと考えられる複数の語があることを指摘した。すなわち、カタロニア語 *deport*、イタリア語 *disporto*、ポルトガル語 *desporto*、フランス語 *desport*、カステイリャ語 *deporte* である。しかも、これらの語義がいずれも「楽しみ、慰み」であったとする。相似した語形と語義をもつこれらの語が、互いに孤立して生まれたとは考えにくい。これらには共通する祖語があったと考えるのが自然である。その共通の祖語こそ、俗ラテン語にはほかならない。俗ラテン語 *dēportāre* が「楽しみ」の意を既に得ていたと仮定すれば、その後に派生したロマンス諸語でも、この語形と語義を受け継ぐ語が存在したことを容易に説明できるのである。

3. 古フランス語

古フランス語とは、諸説あるが、およそ8世紀から14世紀にかけて、現在のフランス北部を中心に用いられていた言語である。中英語 *disport* は直接的には古フランス語 *deport* の借入であることから、古フランス語 *deport*（または *deporter*）の語義や用例を精確に把握することは、*sport* の語史の起点を見定めるためにも重要である。*OED* は動詞 *disport* の語源欄で *deporter* の語義を記したが、辞典の制約上、簡素な記述に止まった。日本では、*OED* の記述の再説に止まり、それ以上の考察には及んでいない（丹羽, 1979, p.277：阿部, 1976, p.101：阿部, 1995, p.13：阿部, 2015, p.6）。以下では、古フランス語 *deport* の語義や用例について、*OED* 以外の史資料を利用して検討していく。

まず、*OED* が参照した『古フランス語辞典』（Godefroy, 1883）を確認する。同辞典では、*deporter* の第一義を「楽しませる、喜ばせる」とした。*OED* が引用したのはこの箇所に限られる。しかしながら、同辞典を確認すると、さらに多くの語義が認められる。すなわち「従事する、気晴らしをする、楽しむ；節約する、惜しむ、耐える；惜しむ；狩りをする；関わるのをやめる、取り除く、慎む、諦める、拒否する；辛抱強く待つ、待つ；放棄する；満たす、請求する」である。

つぎに比較的新しいヒンドリーほか（Hindley et al., 2000）の『古フランス語-英語辞典』から、関係する個所を以下に訳出する。

deport 男性名詞 楽しいこと、楽しみ、喜び；歓楽；慰み、慰安；好意、恩恵；縮小、（罰金や罰則の）軽減；*metre en(bel) d.* 冗談にする、軽く扱う；*suns nul d.* すぐに、遅滞なく；えこひいきせずに；*a.d.* 意のままに；*faire d.a.* 除

外する、免除する

deportable 形容詞 愉快的、楽しい

deportment 男性名詞 行為、立ち居るまい；遅延、延期

deporter 自動詞 我慢する；d.a., (性的に) 楽しむ

deporter 再帰動詞 振る舞う、追放する；楽しむ、慰む；(性的に) 楽しむ；とどまる；遅れる、滞在する、時間を浪費する；なしで済ませる、手間を除く；慎む、遠慮する；辞退する

deporter 他動詞 楽しませる；元気づける、慰める；優しくする、寛大に扱う；脇に置く；離れる、止める；放棄する；送り出す；なしで済ませる、慎む；奪う；施す、赦す；免れさせる、免除する；排出する、(債務を) 免除させる；赦免する、罪を免除する

以上より、古フランス語 *deport* およびその派生語には、楽しみの意の他、節約する、惜しむ、好意、縮小、軽く扱う、すぐに、施す、奪う、免除する、等々、多様な語義があったことがわかる。ただし、古フランス語は約6世紀間に及んで使用されたので、これらの語義がこの間に不変であったと考えることは適切ではない。同時に、これらがどれも一般的な語義だったと考えることも不適切であろう。ここには特殊な語義も含まれていると考えるのが妥当である。たとえば『ノルマン語、古フランス語辞典』(Kelham, 1779) では、*deporter* (*desporter*) の語義として「気晴らし、娯楽」のみを与えており、これが *deporter* の主たる語義であったと理解できる。

つぎに *deport* が実際に12～13世紀のフランスでどのように使われていたのかを確認していく。周知のように、フランスで最初に本格的なスポーツの歴史書を著したジュスラン (Jusserand, 1901, p.2) は、*sport* の出自を英語ではなくフランス語とし、古フランス語の名詞 *desport* や動詞 *desporter* に由来すると主張した。その際、彼が依拠したのは、カンジュ (Du Cange, 1842) の『中世ラテン語辞典』である。同辞典の *deportare* の項に、13世紀の作品『教父伝』が引用されており、ジュスランはそこから文例を抜粋した。すなわち「気散じせんとて、愉しまんとて…馬を駆りて狩りにと出でにけり」という一節である。ここで「愉しまん」とある箇所が、原語で *déporter* である。

同じカンジュの『中世ラテン語辞典』では、*déporter* の用例として『教父伝』のほかに『悪魔のロベール』も引いている。『悪魔のロベール』は中世フランスに起源をもつノルマン人騎士の物語である。現存する13世紀の写本がロセト (Löseth, 1903) によって翻刻されており、全文を確認することができる。2075行に名詞 *deport* が「楽しみ」という意味で、1245行と1899行に動詞 *deporter* が「楽しませる」という意味で使われている。

カンジュは *desport* の古い用例を『教父伝』と『悪魔のロベール』に見出したが、ボナフェ (Bonnaffé, 1920) はさらに古い用例を指摘した。『テーベ物語』と『エネアス』である。どちらも1150年頃の作品であるが、一般に『テーベ物語』のほうが『エネアス』に先駆けて成立したとされる。一方、*CNRTN* が提供するコーパスは、*sport* の項で『テーベ物語』を示したほか、*déporter* の項では『ニームの荷車隊』と『トリスタン物語』も示している。

まず『テーベ物語』から見てみよう。『テーベ物語』は古代ローマの詩人カエキリウス・スタチウスの『テバイド』を原典とする作者不詳の作品で、1150年頃に北フランスで成立した。コンスタン (Constans, 1890) による校訂本では、本編の1057行と8752行にそれぞれ *deporz* と *deport* の用例を確認できる。同書の語句索引では、*deport* の語義を「娯楽、楽しみ」としている。一方、『エネアス』

は、古代の叙事詩をモチーフにして1150–1155年頃に書かれたやはり作者不詳の作品である。『スポーツ用語辞典』を著したプチオ (Petiot, 1982) を始め、語源辞典を著したデュボイスほか (Dubois et al., 2011) など、古フランス語 *deport* の初例を『エネアス』に見る著者は多い。『エネアス』はサルフェルダ・デ・グラフ (Salverda de Grave, 1891) によって翻刻されており、原野ほか (2000) による訳書もある。当該箇所をここに抜粋する。

- 1) 死人から幸福をもらえはしない。／生者と楽しむものよ (*deport*)。1339–1340行
- 2) トゥルヌスはゆえなく私を憎んでおります。／しかし、できるかぎり気にすまい (*deport*) としますし／今日もそのことはうまくかわします。6645–6647行
- 3) あなたが死んだことで／わたしは永遠に喜びも慰め (*deport*) も失った。7383–7384行
- 4) 涙の後には喜びと笑みが、／気が遠くなった後には何度も大きな快楽 (*deporz*) が、7961–7962行
- 5) 彼からさぞや良い慰めや／結構な愛、悦楽 (*deport*) をもらうことでしょう。9143–9144行
- 6) 今無用にこれほどつらい思いはせず、／甘い喜び (*deport*) を感じていたであろう。10064–10065行

つぎに『ニームの荷車隊』である。この作品は12世紀前半もしくは同世紀の半ば頃、イル＝ド＝フランス地方出身の作者により執筆されたと推定されている。*CNRTN*では、「楽しませる、緊張をほぐす」を意味する *déporter* の初例を、『ニームの荷車隊』に見る。ペリエ (Perrier, 1963) の校訂本では、主人公が森で狩りをする場面で、*deporter* が使用される。一方、『トリスタン物語』は12世紀後半の作品で、ノルマンの詩人ベルールによって執筆されたといわれる。ミュレ (Muret, 1903) の校訂本では、*deporter* が3078行において「喜び、楽しみ」の意味で使用されている。リトレ (Littré, 1878) の『フランス語辞典』では、*déport* の項で幾つかの用例が記されている。その中で「楽しみ」の意と明記しているのは、13世紀中頃のリュトブフによる宗教物語『エジプトのマリア』における用例である。すなわち「彼女は港に2人の若者を見つけた／彼女はいつも楽しみ (*deport*) に耽っていた」とある。

以上を小括する。①古フランス語 *deport* およびその派生語には、楽しみ、節約する、惜しむ、好意、縮小、軽く扱う、すぐに、施す、奪う、免除する、等々、多様な語義があった。② *deport* が、確実に「楽しむ」という意味で使用されたことを文証できるのは、12世紀以降である。③初期の文献として『ニームの荷車隊』、『テーベ物語』、『エネアス』がある。④『ニームの荷車隊』には1例、『テーベ物語』には2例、『エネアス』には6例の用例を確認できる。⑤これらの文献では、語形は不安定ながらも、語義は「喜び、楽しみ、慰め」などであった。⑥以上から、古フランス語 *deport* は遅くとも12世紀中頃には、近代の英語 *sport* に繋がる語義を確実に持っていた。

4. アングロノルマン語およびアングロラテン語

中英語 *disport* が古フランス語からの借入として、その借入の過程には、いかなる経路があったのか。むろん古フランス語から中英語へ直接入った可能性も考えられるが、他の見解もある。最も有力なのが、古フランス語からアングロノルマン語を経て英語に入ったとする見解である (*OED*: Bonnaffé, 1920: Barnhart, 1988: Ayto, 1990: 中島ほか, 1962: 下宮ほか, 1989: 寺澤, 1997)。一方、『中英語辞典』(以下、*MED*) はそれ以外の可能性も示唆した。すなわち、アングロノルマン語および中央フラ

ンス語の *deport*、またはアングロラテン語の *desportum*(-us) から英語に入ったとする見解である。これらの言語は、日本ではほとんど検討されてこなかった (岸野, 1973, 1977: 高橋, 2003: 阿部, 1976: 友添, 2015 など)。アングロノルマン語やアングロラテン語は、大陸の言語ではなく、ブリテン島で使用された言語であり、英語との接触の機会が大陸の言語よりも多かったことから、*sport* の語史を検討する上で外せない言語である。

1) アングロノルマン語

アングロノルマン語は、アングロフランス語とも呼ばれ、中世イングランドで独自に形成されたフランス語の一種である。フランスのノルマンディー公ウィリアムが1066年にイングランドを征服したあと、古フランス語のノルマンディー方言がイングランドの支配者階級の間で、特に交易、法律、裁判に関わる言語として使用された。その後、支配者階級の間でも英語が少しずつ使用されるようになり、ブリテン島のノルマンディー方言は次第に大陸の影響から離れて独自の変化を遂げた。それがアングロノルマン語である (ポウプ, 1980, pp.1-9: 町田, 2001, pp.32-34)。

OED は、*disport* の語源欄でアングロノルマン語 *desporter* に言及した。ただし、近代以前の表音文字の常として、語形は不安定であった。当時は標準的な正字法がなかったことに加え、写字生が接頭辞に対して自由に振る舞ったからである (ザンク, 1994, p.89)。『アングロノルマン語辞典』(*Anglo-Norman Dictionary*) によれば、名詞 *desport* には、他にも *deport*、*disport*、*desporto* の語形があり、動詞 *desporter* には *desportier*、*despourter*、*deporter*、*depporter*、*disporter* の語形があった。接頭辞に限っても、*de-*、*dis-*、*des-* の違いがある。語形がこのような不安定であったことが、語源語の探究をより困難にしている。

ついで *desport* と *desporter* の語義を確認する。ムワジー (Moisy, 1889) は、*despoeter*、*deporter* に「楽しむ、息抜きをする、気晴らしになる」の意を与えた。とはいえ、実際の使用に際しては、文脈に応じて多岐にわたる語義が、以下の如く派生したと見られる。上記の『アングロノルマン語辞典』から、名詞 *desport* と動詞 *desporter* の語義に関わる箇所を訳出する。

desport s.1. [感情] 楽しみ、喜び。2. 娯楽。3. 癒し、息抜き。[法律] 執行猶予、免税。形容詞 **en desport** 気ままに。**en desport** 1. [感情] 幸せな。2. 好意で。**sanz nul desport** 1. 厳然と、えこひいきせずに。2. 中断せずに。**aver desport et ese de** [法律] (責任などから) 自由である。**faire desport a** 1. 歓迎すること。2. [法律] 除外すること、免除すること。**faire desport et ease a** 大目に見ること、情け深いこと。

desporter v.a. 1. 取り除く、移動する。2. 奪う、失う、奪われる。3. 控える、なしで済ませる。[法律] 控える、業務等をなしで済ませる。4. しそこなう。5. やめる、捨て去る。6. 置き去る、やめる。7. 我慢する。8. 慰める、元気づける。楽しませる。v.n. 1. 待つ、我慢する。2. 助けにならない、冷たくあしらう。3. 自制する、節度をわきまえる。4. 遊ぶ。v.refl. 1. 立ち去る。2. 自制する、抑える。3. 気を紛らす、(性的に) 楽しむ

これを見ると、アングロノルマン語の *desport* や *desporter* には、楽しみや喜びの意味だけではなく、除外する、免除する、なしで済ませる、我慢する、えこひいきせずに、奪うなど、古フランス語 *deport* や *deporter* に繋がる様々な語義があったことがわかる。その一方で、古フランス語にはあった、追放する、送り出すなどの意を喪失したという変化も見取れる。

つぎに、desport と desporter に関して、楽しみや喜びの意で用いられた例に限り、ここで確認する。『アングロノルマン語比較用語集』では2例、『アングロノルマン語辞典』では14例を所収しており、計16例を確認できた。各用例の出典と語義等をまとめたのが表2である。名詞 desport の初例は12世紀中頃であり、動詞 desporter の初例は12世紀第4四半期である。その後、国民意識の高揚と共に英語が失地回復をして、アングロノルマン語の衰退が顕著になる14世紀後半まで、各世紀に用例を確認できる。出典は、キリスト教の典礼劇、騎士道物語、宮廷の恋愛物語、年代記、聖人伝などの文学作品に多く、アングロノルマン文学の全盛時代が12世紀半ばから13世紀半ばであったことと関連すると考えられる。

表2 アングロノルマン語 deport、deporter の用例

成立年	作 者	作 品 名 称	語		語 義
			名 詞	動 詞	
1146-72 年		『アダムのおそび』 184 行	deport		delight, joy
1155-1160 年	ブリテンのトマ	『トリスタン』 2396 行	deport		delight, joy
1160-1170 年	ワース	『ルー物語』 1956 行		desporter	to enjoy
12 世紀第 4 四半期	ケントのトマ	『アレクサンダー』 2777 行		desporter	to disport oneself
		3585 行		deportez	to comfort, cheer
		4893 行		desporter	to play
		7232 行	desporz		delight, joy
12 世紀後半		『ウィリアムの唄』 2397 行		deporter	to play
12 世紀後半	マリ・ド・フランス	『レベースの詩』 175 行		deporter	to enjoy
12 世紀	ボーリュのギシャード	『説教集』 278 行		desporter	to enjoy oneself (sexually)
1240 年頃		『ギムンドとドリユの巡礼』 87 行	desport		delight, joy
1240 年頃		『聖燭祭』 91 行	deport		comfort, relief
13 世紀		『聖ジョン・ザ・アルムスギバーの生涯』 4493 行		deporter	to entertain
1354 年頃		『聖医の書』 188 行		desporter	to comfort, cheer
1382-1399 年		『無名の年代記：1333-81』	desporte		entertainment
14 世紀	記録委員会	『スコットランド・ロール』 第 1 巻 748 頁	desport		comfort, relief

2) アングロラテン語

MED は disport の語源として、アングロノルマン語及び中央フランス語の desport の他に、disportum(-us) を提示した。アングロラテン語とはイングランドで使用された中世ラテン語で、主に宗教用語や法律用語として使われた。以下では、かかる disportum(-us) について検討する。

中世のイングランドでは、おもに3つの言語が使用された。支配階級のフランス語（アングロノルマン語）、民衆の英語、そして宗教や学術の分野で重んじられたラテン語である。政府や行政機関の公文書は、フランス語またはラテン語で書かれた。したがって、しばしば sport の語源語とされるラテン語 deportare も当然のこととしてイングランドでも使用例があった。イギリスに残るラテン語のテキストから作成された『英国資料にみる中世ラテン語辞典』（Ashdowne et al., 2018）では、709年から1485年まで計23件の用例が採録される。deportare の語義は「1. 追放する、流刑にする、脱出する、除名する。2. 持ち運ぶ、身に付ける、3. 持って行く、負担になる、動く、案内する、付き添う、持って

来る、輸入する、4. 持ち出す、5. 支える、持続する、耐える」であり、「気晴らし」の意はない。イギリスで用いられた *deportare* に「気晴らし」の意がなかったことを確認したところで、つぎに *disportus* を見る。

『英国資料にみる中世ラテン語辞典』に *disportus* の項はなく、カンジュ (Du Cange, 1842) の『中世ラテン語辞典』に同語の項がある。すなわち *disportus* は「英語で *disport*、フランス語で *divertissement*」とされる。つまり *disportus* の第一義は「気晴らし」であり、イングランドでもフランスでも使用例があったことを示す。カンジュはまた、その用例をヘンリー6世の発した1449年の法令（これは下記の如く条約のこと）から引く。すなわち「狩猟、釣魚、捕鳥のため、あるいは同様の運動による気晴らし (*disportum*) や慰み (*solatium*) のため」である。ここで興味深いのは、のちにジェントルマンの娯楽と見なされる「狩猟、釣魚、捕鳥」がワンセットで言及されていることである。管見の限り、「狩猟、釣魚、捕鳥」を1つに結び付けて *sport* と呼んだ例は、ジュリアナ・バーナーズの『聖オルバンズの手紙』の再版 (1496年) に加えられた「釣魚論」が最も古い。しかし、ここにあるように、その源流が15世紀中頃の条約に認められるのであれば、新たな事実の発見といえる。

つぎに、1300年以降の公文書等をデータベース化した英国史オンライン (*British History Online*) で *disportum* を検索すると、1438年 (3月20日)、1449年 (11月15日)、1451年 (8月14日)、1453年 (5月23日)、1457年 (6月11日)、1459年 (9月12日)、1484年 (9月21日)、1486年 (7月3日) の条約にも、カンジュの引用文と同じ文例を確認できた³⁾。これらはいずれもスコットランドとの間で締結された条約である。これらの条約はアングロラテン語で書かれ、イングランドとスコットランドの両国が停戦を維持することを明記し、併せて互いに規制すべき事項を広範に列挙した。その一つが狩猟であり、それに関わって *disportum* という語も使用されたのである。当時のスコットランドとイングランドの間では、国境を超えて狩猟を行うことを規制する法律が何度も更新されたとされるが (Percy, 1844, p.3)、これらの条約を指すものだろう。とまれ、狩猟などの気晴らしを意味するアングロラテン語 *disportum* が、国家間の公的な合意を記す、15世紀の条約に繰り返し現れることを指摘しておきたい。

以上から、中世のイングランドでは、気晴らしを意味するアングロラテン語 *disportus* の使用が公文書において確認できる。もちろん、この一事をもって、*sport* の由来を *disportus* に求めることはできないにしても、狩猟、釣魚、捕鳥と関連づけられた語であったという点は、スポーツ史的には興味深い。狩猟、釣魚、捕鳥などのジェントルマンの特権的な娯楽を他の娯楽から区別して、それを *sport* と呼称する、後代のイギリス・ジェントルマンの慣用の淵源がここに認められるからである。

5. 中世以前の *sport* の類義語

阿部 (1976, 1995) は、*sport* の概念史を紐解くに当たり、*sport* だけではなく、*game*、*play*、*athletic*、*gymnastic* といった類義語も併せて考察して、*sport* という語の相対的な個性を見極めようとした。しかしながら、「気晴らし、慰み」を表す語には、古英語期 (450–1100年) から既に複数の語が存在した。それにもかかわらず、*disport* がなぜフランス語から新たに借入されたのか。その理由の最終的な解明は将来の研究を俟つ他ないが、ここではその端緒として、古英語および中英語における「気晴らし、慰み」を表す類義語の存在状況について確認する。ただし、ここでは名詞に限定し、動詞、形容詞等は割愛した。

『オクスフォード歴史類語辞典』は類義語の通時的な考察にとって有益であり、オンライン版 (*The Historical Thesaurus of English*) もある。これにより、様々な概念や事物を表わす語彙の歴史の変遷を古代から現代まで俯瞰することが可能になる。これに加え、『コンサイス・アングロサクソン語辞典』(Hall, 1916)、*MED*、*OED*の情報を加えて作成したのが表3である。

表3 古英語および中英語における sport の類義語

年 代	語	語 義	出典
OE [†]	hyhtplega	joyous play, sport (<i>ASD</i>)	①②
OE	lāc	play, sport (<i>ASD</i>)	②
OE	twang	sport (<i>ASD</i>)	②
OE-1579	gliw > glee	pleasure, mirth, play, sport (<i>ASD</i>)	①②
OE-PDE ^{††}	plega > play	festivity, drama, game,&c. (<i>ASD</i>)	①②
OE-PDE	gamen > game	sport, joy, mirth, pastime (<i>ASD</i>)	①②
?c1200-1570 obs. exc. northern dial. ^{†††}	lake(leik,leʒk,laik(e))	amusement, diversion; sporting contest,&c. (<i>MED</i>)	①③④
c1205	hiredplæie	courtly amusement (<i>HTE</i>)	①
c1275(?a1200)	wil-gomen	a diversion, sport, pastime (<i>MED</i>)	①③
c1300	enveisaunce	merry-making, sport (<i>MED</i>)	①③
1297-a1500(?c1450)	deduit	joy, pleasure, delight (<i>MED</i>)	①③④
1303-PDE (arch.)	disport	an activity that offers amusement, pleasure,&c. (<i>MED</i>)	①③④
c1250-a1500	spi ^l le(spille-,spele-,&c.)	play, sport, revelry (<i>MED</i>)	①③④
c1300-a1500	bōurde	game, sport, amusement, entertainment, fun (<i>MED</i>)	①③
a1297-1667	solace	joy, pleasure, happiness; relaxation, recreation,&c. (<i>MED</i>)	①③④
a1400(c1300)- c1460(?c1400)	recolāge	diversion, merry making, revelry,&c. (<i>MED</i>)	③④
c1400-PDE	recreāciūn	the action of amusing somebody or oneself, recreation,&c. (<i>MED</i>)	①③
c1400(?a1300)	envēsūre	sport, merriment (<i>MED</i>)	③④
c1410	revelrie	amusement, diversion, pleasure (<i>MED</i>)	③
a1425-PDE	sport(e)	amusement, entertainment; pleasure, fun,&c. (<i>MED</i>)	①③④
c1450	museries	amusements, games (<i>MED</i>)	③
?c1450	joieuseie	amusements (<i>MED</i>)	③
(c1454)-PDE	distracciūn	distraction, diversion of the mind (<i>MED</i>)	③④
a1500(?c1450)	enveisaunce	merry-making, sport (<i>MED</i>)	③

[†] Old English

^{††} Present-Day English

^{†††} obsolete except northern dialect

出典① *Historical Thesaurus of English* (<https://ht.ac.uk/>)

② *Anglo-Saxon Dictionary* (https://www.ling.upenn.edu/~kurisuto/germanic/oe_bosworthtoller_about.html)

③ *Middle English Dictionary* (<https://quod.lib.umich.edu/m/med/>)

④ *Oxford English Dictionary*

この表から指摘できるのは次の通り。古英語期から中英語期まで、「気晴らし、慰み」を表す類義語として、sport (disport) を含めて24語を確認できる。このうち古英語期に存在したのは、hyhtplega、lāc、twang、gliw、plega、gamenの6語である。『コンサイス・アングロサクソン語辞典』はこれらの語義として、plegaを除き、いずれもsportを与える。このうちhyhtplega、lāc、twangは古英語の段階で廃語になり、gliwは16世紀に廃語になった。残るplega、gamenは、語形をplay、gameに変えて、現代英語として残る。

disportが文献に現れる1303年と同時代には、競合する語として、古英語期から存在したgliw、plega、gamenの他に、lakeが存在した。lakeはゲルマン系の語であり、ホイジンガ(1973, pp.91-95)も『ホモ・ルーデンス』で論及した。彼はその祖語として古代ゴート語leikan(飛び跳ねる、踊る)を推定し、高ドイツ語の名詞leich(楽曲)、古ノルド語やアイスランド語のleik(あそび)、leikr(闘い)、leika(あそぶ)、近代のデンマーク語lege(あそぶ)、スウェーデン語leka(あそぶ)に繋がりをみた。このlakeが中英語にも存在し、gliw、plega、gamenと共に、「気晴らし、慰み」の意を表したのである。

14世紀初頭になって、deduitとdisportが新たに借入された。deduitも、disportと同様に、古フランス語に由来する。1150年頃に書かれた『ブリュ物語』に初例が認められ、「もてなし、楽しい職業」(Littré, 1878)を意味したが、英語への借入後は「喜び、楽しみ、歓喜」を意味した。14世紀末までに、さらにspile、bōurde、solace、recolāgeの語が加わり、「気晴らし、慰み」を表す類義語がより豊かになった。spileはもちろんどイツ語のspielに対応し、古高ドイツ語spil(あそび)に由来する(OED)。

15世紀末までに、さらに8つの新語が登場する。そのうちenvēsūre、revelrīe、muserīes、joieuseie、enveisaunceの5語は短命であったが、recreāciōun、sport(e、distracciōunは、それぞれrecreation、sport、distraction(気晴らし)として現代英語に生き続けた。

以上から、次のことを指摘できる。古英語や中英語に既にdisportの類義語が存在した。このことは、disportの英語への借入の理由として、新しい物事や概念の移入に伴う「文化借用 cultural borrowing」ではなく、支配階級や上位文化に対する憧憬から、借入によって自らの威信を高めようとする「威信借用 prestige borrowing」であったことを示唆する。

一方、英語系とフランス語系の両方の語が併存した場合、しばしば意味の分化が起こったことが知られる(ボーほか, 1981, pp.219-220)。ただし、「気晴らし、慰み」を表す語に関しては、類義語の数が増えるのに伴って、意味の分化が進展したようには見られない。少なくとも中英語の段階では、disportが「気晴らし、慰み」を表す語の中で、特別な地位を占めたとは認め難い。見方を換えれば、「気晴らし、慰み」を表す、これら複数の語の中で、どの語が後々まで長く残る語として定着するのかは、当時としては何の保証もなかったのである。

なお、中英語はフランス語から大量の語彙を借用し、それによって英語本来の語が多く廃語に追い込まれたが(ボーほか, 1981, pp.217-219; 寺澤, 1997, pp.68-69)、「気晴らし、慰み」を表す類義語のうち、幾つかの語が廃語になったのも、それと同じ理由であったかどうかは今後の課題である。

6. 中英語および古スコツツ語

1) 中英語

阿部(1976, 1995, 2009)、丹羽(1979)、友添(1988)の研究は、中英語disport(sport)につい

て略説したが、*OED*の記述の域に止まった。ここでは*OED*以外の史資料も加えて、disportおよびsportについて検討する。

まずdisportおよびsportの初例について*OED*と*MED*により確認する（表4）。初例をどの文献に見るかは両辞典で異なるが、disport、disportenは14世紀の文献で確認でき、sport、sportenは続く15世紀から文献で確認できるとした点は共通する。すなわち、名詞disportの初例は*OED*で1303年（ロバート・マニング『罪を論ず』）、*MED*で1387-95年頃（チョーサー『カンタベリー物語』）、動詞disportenの初例は*OED*で1374年頃（チョーサー『トロイラスとクレシダ』）、*MED*で1390年頃（チョーサー『カンタベリー物語』）である。同様に、名詞sportの初例は*OED*で1440年頃（『イボミドン伝』）、*MED*で1425年（『文法の精髓』）、動詞sportenの初例は*OED*で1400年頃（『トロイの滅亡』）、*MED*で1425年前（『石工職人の規約』）である。

表4 中英語disport、sportの初期の用例

成立年	作 者	作 品 名 称	語		出典
			disport	sport	
1303年	ロバート・マニング	『罪を論ず』4107行	dysport		<i>OED</i> , disport sb.1
1374年頃	ジェフリー・チョーサー	『トロイラスとクレシダ』592行（他4例）	desport		<i>OED</i> , disport v.1
1375年	ジョン・バーバー	『ブルース』第3書 586行	disport		<i>OED</i> , disport sb.1
1380年頃		『サー・フェルンプラス』2217行	disport		<i>OED</i> , disport sb.2
c1386-1400年	ジェフリー・チョーサー	『カンタベリー物語』法律家の話143行（他20例）	disport		<i>MED</i> , disport(n).1(a) <i>OED</i> , disport sb.1 <i>OED</i> , disport v.2
1390年頃		「休みたくないけど一休み」（詩）15行	disport		<i>MED</i> , disport(n).1(a)
1400年頃	ジョン・マンデヴィル	『航海と旅行』1839年版 17頁（他12例）	desport(es)		<i>OED</i> , disport sb.1, 2 <i>OED</i> , disport v.2
1418年頃	ヘンリー5世	宛名不明の手紙	disport		<i>MED</i> , disport(n).1(a)
1425年前		『文法の精髓』		sporte	<i>MED</i> , sport(e (n.)) 1(a)
1425年前		石工職人の規約		sportyn	<i>MED</i> , sporten (v.) (a)
1438年頃		『マージェリー・ケンプの書』2372行		sportyd	<i>MED</i> , sporten (v.) (a)
1440年頃		『散文アレクサンダー』	disporte		<i>MED</i> , disport(n).2(a)
1440年頃		『イボミドン伝』601行		sporte	<i>OED</i> , sport sb.1.1
1443年頃		キリスト教規則		sportis	<i>MED</i> , sport(e (n.)) 1(a)
1450年頃(1400年頃?)		『バビロンのスルタン』1995行 2087行	disporte	sporte	<i>MED</i> , sport(e (n.)) 1(a)
1450年前(1421年頃?)	ジョン・リドゲイド	『テューベ攻囲』163行（他4例）	disport		<i>MED</i> , disport(n).1(a)
1450年前		「鷹狩」（詩）644行		sport	<i>MED</i> , disport(n).1(a)
1450年頃		『アルファベット順逸話集』第5話18行（他4例）	disporte	sportis	<i>MED</i> , disport(n).1(a)

既述の通り、「楽しみ、喜び」の語義をもつ古フランス語deportおよびアグロノルマン語desportの初例は12世紀中頃であった。その後、海峡を越えて、英語の文献にdisportが現れるまでに、およそ150年から200年を要したことになる。なお、disportが現れる14世紀は、ちょうどフランス語から英語への借入がピークを迎えた時期と重なる（ポーほか、1981, p.216）。

つぎに*MED*により、disport、sportおよび派生語の語義について以下に訳出する。

disport(n.) または **desport** 1. (a) 楽しみ、喜び、寛ぎをもたらす活動；歓楽、浮かれ騒ぎ、陽気な騒ぎ、レクリエーション；*maken*〜で、〜を楽しませる；*taken*〜で、楽しく過ごす、楽しむ；(b) 娯楽、スポーツ、ゲーム；また、愛の駆け引き、いちゃつき；(c) *in*〜で、冗談で 2. (a) 何らかの活動に参加する楽しみ、またはその活動から得られる喜び；*haven*〜で、(何か)をして楽しむ、満足する；(b) 慰み、癒し；心地よくするもの；*don*〜で、(誰かを) 元気づける 3. (a) 立ち居ぶるまい、行為；慣習的な行動、習慣、態度；(b) 行為の実例、行動や活動、*don*〜で、何かをする 4. 立ち去る；*maken*〜で、(ある場所に) 出発する

disporten(v.) または **desporten** 1. (a) レジャー、スポーツ、娯楽で時間を過ごす；楽しむ、陽気になる (再帰動詞、自動詞)；(b) くつろぐ；元気になる (再帰動詞) 2. (a) (誰かを) 楽しませる、もてなす；(b) (誰かを) 元気づける、慰める 3. (a) 振る舞う、(ある方法で) 行動する；(b) 忙しくする、活発になる 4. (a) 軽減する；(誰かが参加するのを) 妨げる

disporter(n.) 吟遊詩人、道化師

disporteresse(n.) 女性の吟遊詩人、道化師

disportful(adj.) 楽しみや娯楽に満ちたもの

disporting(ger.) くつろぎ、慰み、スポーツ；〜*place*、*on*〜で、楽しみのため

sport(e n.) または (誤用) **sprote**. 1. (a) 楽しみ、慰み；喜び、面白いこと；また、喜びや楽しみをもたらす活動；娯楽、ゲーム；また、?性的な達成、愛を表現する行為；*don sportes*で、ゲームをする；*haven(taken)*〜で、喜びを得る、楽しく過ごす；?浮かれ騒ぎに加わる；*maken*〜で、楽しみを生む、気分をよくする；(b) 喜びや楽しみになるもの；(c) 冗談；愚行；*in*〜で、冗談で；*connen no*〜で、愚かでないことを嗜む 2. 癒し、慰み；また、?くつろぎや慰みの方法；*maken*〜で、(誰かを) 慰める、元気づける 3. *port(e n.1.(a);(b))* の誤りか? *spot n.(1)* の誤りか?

sportance(n.) 慰み

sporten(v.) または **sport(e, sportin(e** (a) 再帰用法 楽しむ、楽しく過ごす、くつろぐ；〜*on(with)*で、(何かの活動で) 楽しむ、(会話や言葉で) 楽しむ；(b) 動物に関して；力を抜く—比喻；現在分詞 人間に関して、スポーツの (c) (誰かを) 慰める、元気づける

sportful(adj.) または **sportfulle** 面白い、愉快的な、楽しい；また、快い

sporting(ger.) 喜ぶ行為；楽しみ、レクリエーション

以上のように、中英語の *disport*、*sport* は「楽しみ、喜び」を第一義とした。「立ち居ぶるまい、振る舞う、立ち去る、軽減する」などの語義は、古フランス語 *desport*、*disporter* の語義を残すものだろう。また、語義の輪郭も相変わらず曖昧である。とはいえ、「遅れる、赦す」などの語義もあった古フランス語と比べると、語義の多様性の幅はやや狭まったといえる。興味深いのは、*disportful* (初例 1410 年頃)、*disporting* (初例 1416 年)、*sportful* (初例 1450 年頃)、*sporting* (初例 1475 年頃) などの新しい派生語が現れたことである。-ful や -ing といった英語本来の接尾辞が借入語に加わることは、当該の借入語が英語に同化したことを意味するからである (ポーほか, 1981, p.217)。つまり、*disport* や *sport* という新しい借入語も、15 世紀になると着実に英語の語彙として定着し始めたと理解できる。

つぎに *disport* (*sport*) が実際にどのように使われたのかを、中世文学を代表する『カンタベリー物語』(c1387–1400 年) で確認する。『カンタベリー物語』の訳書には幾つかの版がある。訳文は訳者によって個性が表れるのが常である。ここでは正確を期すため、笹本長敬 (2002) と榊井迪夫 (1995) の訳を照らし合わせて抜粋する。原文は対訳版の英文テキスト (*Interlinear Translations of Some of The Canterbury Tales*) を参照した。下線部が *disport* の箇所である。

1) 確かに彼女は大変魅力があり (笹本訳, p.5) / 非常に楽しそう (榊井訳, 上巻, p.20)

- 2) 気晴らしも楽しみ (pleasure) もありませんからな、(笹本訳, p.18)／わたしは皆様をお慰めし、なにか楽しみになることをして差し上げようと思います。(榊井訳, 上巻, p.57)
- 3) 月曜日にはわが身を慰め、気を紛らす (play) ために (笹本訳, p.78)／月曜日に連れと一緒にうさ晴らしをして遊ぶために (榊井訳, 上巻, p.164)
- 4) 見てるべ、楽しみだなあ。(笹本訳, p.87)／そいつがはくの楽しみだ。(榊井訳, 上巻, p.180)
- 5) 歌ったり、踊ったり、そしてこんな楽しみをするのだった。(笹本訳, p.94)／踊ったり歌ったり、面白いことをして遊んだりしました。(榊井訳, 上巻, p.194)
- 6) その仲間は骰子と、遊興と、女遊びを好み (笹本訳, p.95)／この仲間はばくちや飲み騒ぎや遊びごとがとても好きで (榊井訳, 上巻, p.195)
- 7) それは商取引のためであろうと、遊びのためであろうと (笹本訳, p.99)／それは商売のためだったのでしょうか、それとも遊びのためだったのでしょうか。(榊井訳, 上巻, p.202)
- 8) 気晴らしでもして来なさい。(笹本訳, p.130)／骨休みして楽しむがいい。(榊井訳, 中巻, p.20)
- 9) 興に乗っていつも喜んで読み耽っておりました。(笹本訳, p.137)／彼は夜昼いつも慰めのための本を読んで (榊井：中巻, p.34)
- 10) 道中の楽しみを台無しにしているぜ (笹本訳, p.141)／お前はわしらの楽しみをいつもこんなに邪魔しやがる。(榊井訳, 中巻, p.40)
- 11) あたしはこの人からまったく楽しみを得られませんし (笹本訳, p.162)／わたしはほかの楽しみなんか何ひとつあの人からはもてませんわ。(榊井訳, 中巻, p.86)
- 12) 地上の楽園であり、喜びであるということ (笹本訳, p.203)／地上の楽園であり、またその楽しみである (榊井訳, 中巻, p.178)
- 13) 喜ばしてやってくれ、あれは高い身分の生まれなのじゃ (笹本, p.215)／彼を慰めてやってくれ、彼は気高い男だ (榊井訳, 中巻, p.198)
- 14) その泉の周りで戯れ (笹本訳, p.217)／その泉のほとりで遊びたわむれ (榊井訳, 中巻, p.202)
- 15) 出ておいで、楽しもうよ (笹本訳, p.219)／さあ、おいで、一緒に楽しもうじゃないか (榊井訳, 中巻, p.216)
- 16) 彼女は気晴らしのために、海岸の高い崖の上をよく友達と散歩した (笹本訳, p.244)／心を楽しませるためにしばしば彼女は友達と一緒に高い堤の上を歩きました。(榊井, 中巻, p.254)
- 17) 楽しいことではなくて悲しいことであることが分かったので (笹本, p.244)／決して気晴らしではなく悲しみだということを知りました。(榊井, 中巻, p.256)
- 18) 彼は行楽のために野に遊び (play) に出かけた (笹本, p.304)／メリベウスは気晴らしのために野原へ出かけて行きました (榊井, 中巻, p.372)
- 19) それには愉悦も遊び心 (game) もありません (笹本, p.358)／話になんのくつろいだところもなければ、面白いところもありませんからね (榊井訳, 下巻, p.49)
- 20) 皆さんがたと一緒にすることは旅の慰めになって、大変楽しいですよ。(笹本, p.387)／あなたがたと御一緒に馬で出かけるのはとても気晴らしになることですよ。(榊井, 下巻, p.103)
- 21) 彼の楽しみは (笹本, p.408)／心を楽しませるために (榊井, 下巻, p.145)

両訳者の語釈に大きな相違がないことを確認した上で、以上から得られる知見を指摘する。①『カントベリー物語』における disport の用例は21件である。②他に、disporte、disporten、desport の語形が認められた。③ただし、sport の用例はない。④disport は、「立ち居ぶるまい、振る舞う、立ち去る、軽減する」(MED) を意味する用例はなく、主として「楽しみ、喜び、慰み」の意味で使用された。⑤disport には、何かをして「楽しみ、喜び、慰みとする」という含意を読み取れるが、その「何か」とは、歌や踊り、賭け事、女遊び、飲酒など多様であり、特定の遊び方を指示するものではない。

2) 古スコッツ語

sportの語史に関する日本の従来の研究は、古スコッツ語sport (disport) の存在を見過してきた。ここでは古スコッツ語sport (disport) について検討する。

古スコッツ語とは1700年以前にスコットランドで使用された言語である。disport、sportについて、『スコットランド言語辞典』(*Dictionary of the Scots Language*) により確認する。同辞典は『古スコッツ語辞典』(1937-200) と『スコットランド国定辞典』(1931-1976) を統合したオンライン辞典である。これによれば、名詞disportの初例は中世スコットランドを代表する詩人ジョン・バーバーの『ブルー』(1375年) に認められる。動詞disportの初例は同じくバーバーの『トロイの書』(1400年頃) に認められる。一方、名詞sportの初例はロバート・ヘンリソンの代表作『クレセイドの遺言』(1500年頃) である。動詞sportの初例は作者不詳の『アレクサンダーの書』(?a1400, ?1438年) である。

つぎに、古スコッツ語のdisport、sportの語義を以下に訳出する。

disport(n.) 1. 娯楽、スポーツ、喜び、気晴らし、くつろぎ 2. スポーツや娯楽

disport(v.) [再帰用法、自動詞] 気を紛らす、楽しむ；スポーをする、あそぶ

sport(n.) 1. a. 娯楽、楽しみ、気晴らし b. 身体運動を伴うレクリエーション、ゲームに参加する c. 性的な活動 d. in sportで、ふざけて、不真面目に e. 比喩：鳥獣の殺害から得られる悦楽 2. 楽しみや気晴らし、見世物になる物事：(舞台用の) 娯楽になるもの；冗談、あざけり b. [特] 聖餐式の運営に関する皮肉な言い方

3. 娯楽やゲーム、また、運動を伴う娯楽やゲーム 4. 限定詞 棍棒

sport(adj.) 冗談で、ふざけて

sport(v.) [再帰用法、自動詞、他動詞] 楽しむ、何らかの活動や娯楽で慰む、くつろぐ；～で楽しむ、～を楽しむ

2. [他動詞] 楽しませる、楽しみや慰みをもたらす 3. [自動詞] いちゃつく、物笑いにする、戯れる

以上を小括する。①フランス語に由来するdisportが、イングランド(中英語)だけではなく、スコットランド(古スコッツ語)でも借入された。②古スコッツ語disportの初例(名詞1375年、動詞1400年)は、英語disportの初例(名詞1300年または1387年、動詞1374年または1390年)と大きく変わらない。③古スコッツ語sportの初例(名詞1500年、動詞1400年または1438年)は、英語sportの初例(名詞1425年または1440年、動詞1400年または1425年)よりも、やや遅れる。④このことは、disportの頭音消失が古スコッツ語よりも英語で先に生じたことを示唆する。⑤語義は、英語も古スコッツも、それほど大きく変わらない。⑥ただし、英語disportが「立ち居ぶるまい、振る舞う、立ち去る、軽減する」の語義を持ち、古フランス語の語義を維持していたのに対して、古スコッツ語にはそうした要素が見当たらない。

7. 近代英語における sport

14世紀の英語に借入されたdisportは、およそ150年から200年を経て頭音を消失し、現在の語形を獲得した。disportは現在も古風な表現として存続するが、1500年以降の近代英語の時代になるとsportが優勢になった。阿部(1976, p.102)は、17世紀頃から主としてsportが使用されるようになったとするが、史料的な裏付けを欠く。ここでは、中世のチョーサーに並ぶ、シェイクスピアの作品を手掛かりにsportの使用状況について検討する。

1) シェイクスピアの作品における sport

シェイクスピアの作品（1590–1609年）における disport と sport の使用状況を確認するために、ここでは『シェイクスピア語彙辞典』（Schmidt, 1902）を利用する。同辞典は、シェイクスピアの作品に出てくる全ての単語、フレーズ等を遺漏なく網羅した辞典である。これによれば、disport の用例は「スポーツ、娯楽」の意味で3例、動詞「楽しむ」の意味で4例である。それに対して、名詞 sport は「気晴らし、娯楽、慰み、喜び、」の意味で76例、「演劇、上演」の意味で15例、「狩りなどの戸外の気晴らし」の意味で13例、「運試しのゲーム」の意味で2例、「性的な戯れ」の意味で9例、「冗談、からかい」の意味で9例、「小ばかにした悪ふざけ、あざけり」の意味で8例、動詞 sport は「楽しむ」の意味で8例である。なお、disport の派生語はなく、sport の派生語として sportful が4例、sportive が5例の用例がある。

以上より、名詞と動詞を合わせると、disport は計7例であるのに対して、sport とその派生語は計149例にも及ぶ。演劇とはおよそ同時代の世相を反映すると考えると、少なくともシェイクスピアの時代には、disport は後退し、sport が明らかに優勢になったといえる。

つぎにシェイクスピアの作品において、sport が実際にどのように使用されていたのかを田中（1988–1991）『対訳シェイクスピア全集』全3巻により確認する。各巻の表記はⅠ、Ⅱ、Ⅲとし、下線は sport の箇所を示す。

「ヴィーナスとアドゥニウス」（1593年）

こんな時を忘れる恋の戯れに耽るなら（Ⅰ, p.9）／私のために遊びや踊りを習ったり（Ⅰ, p.15）／大胆に遊びなさい（play）、私たちの遊びは誰の眼にも入らない（Ⅰ, p.17）／私が楽しみたいと思うところへはどこへでも（Ⅰ, p.19）／同じような情況で、同じような遊びでは（Ⅰ, p.65）

「ルークリースの凌辱」（1594年）

また遊びごと（disport）に耽ったりしていた（Ⅰ, p.93）／悪疫がはびこる時、診察は休んでいる（Ⅰ, p.159）／愚行の時間と慰安の時間が過ぎてゆくことか（Ⅰ, p.165）／たわむれの（sporting）言葉や阿保なことを口にしていたからだ（Ⅰ, p.223）

「情熱の巡礼」（1599年）

青年は意気壮健、老年は息短し（Ⅰ, p.241）／われらの夕べのスポーツは、すべて逃げ去った（Ⅰ, p.249）

「恋人の怨み」（1609年）

辛抱強い競技をするとは！（Ⅰ, p.287）

「ソネット集」（1609年）

君の女遊びをみだらな言葉で語っても（Ⅰ, p.393）／優雅な遊びだと言う（Ⅰ, p.393）／私の道楽などは尊敬されることがあろうか（Ⅰ, p.419）

「ヘンリー六世」（1588–1591年頃）

平和で喜劇じみた遊び事になりそうだな（Ⅱ, p.63）／こんなに楽しい思いをしたことはありませんわ（Ⅱ, p.255）／もっと獲物があつたろうに（Ⅱ, p.259）／それを遊んですごしたほんの一分間と思いながら（Ⅱ, p.341）／わたしを楽しませてくれないのね（Ⅱ, p.473）／何時間遊ぶのに時間をとればいいのか（Ⅱ, p.515）／気晴らし（disport）のためにこちらに狩にこられるのだ（Ⅱ, p.597）／道楽者の（sportful）エドワードか？（Ⅱ, p.621）

「リチャード三世」（1591年）

だがこのおれはそんな芸当（sportive trick）などは思いもよらぬこと（Ⅱ, p.667）

「間違いの喜劇」（1594年以前）

わしは今冗談（sportive humour）言っている気分じゃないんだよ（Ⅲ, p.21）／ふざけやがって馬鹿にしよる（Ⅲ, p.33）／神聖な楽しみとなりましょう（Ⅲ, p.59）／この遊びは高くつくぞ（Ⅲ, p.75）／ひどい恥をかかせて楽しんで

いる (Ⅲ, p.97) / ご主人の楽しみを責めたてた (Ⅲ, p.107) / 食事も、楽しみも (Ⅲ, p.107)

「タイタス・アンドロニカス」(1590年頃)

馬と馬車を用意せい、狩猟場へ (Ⅲ, p.179) / お楽しみのところが邪魔された (Ⅲ, p.185) / このまま狩りを止めて (Ⅲ, p.193) / 貴方の悲しみは彼らの楽しみの種 (Ⅲ, p.221) / これは面白かったですよ (Ⅲ, p.259) / 男たちにとっては工合のいい仕事だったけどな (Ⅲ, p.277)

「じゃじゃ馬ならし」(1594年)

あるお楽しみをやりようとしている (Ⅲ, p.321) / ケートに貞節を、ダイアナに恋の花 (sportful) を! (Ⅲ, p.389)

「ヴェローニの二紳士」(1590年代初頭)

遊びたわむれながら (Ⅲ, p.569)

「恋の骨折損」(1595年頃)

コスタードと彼とは我われの慰み者ですよ (Ⅲ, p.669) / 王や学友たちには好い玩具になっている男ですよ (Ⅲ, p.727) / 全くもって神聖なるお遊びですよ (Ⅲ, p.733) / よし、準備にかかろう (Ⅲ, p.779) / つまずきにはつまずきでやつつけるのが冗談 (sport as sport by sport) の中で最高よ (Ⅲ, p.791) / 我われの楽しみを知って (Ⅲ, p.815) / この芝居も喜劇になったろうになあ! (Ⅲ, p.843)

以上より、シェイクスピアの作品では、中英語 disport、sport と同様に、近代英語としての sport も「あそび、楽しみ」の語義を中心としつつ、「冗談、あざけり、芝居、性的な戯れ、狩猟」などの意を持っていたことがわかる。ただし sport に「芝居」の意を与える慣用は、シェイクスピアを始めとする劇作家に特有の用法であった可能性も考えられるが、その可能性の検討は別の機会に委ねたい。

2) 同時代の辞典にみる sport

阿部 (1995) は、サミュエル・ジョンソンの規範的な英語辞典が刊行された1755年以降の英語辞典を利用して、sport の概念史をトレースした。この作業を通して、OED の説明だけでは十分に把握できない sport の語義の変遷をより丹念に抽出した。同様の作業は、ジョンソン以前の時代を対象としても必要であろう。以下では、18世紀までに刊行された辞典により sport の語義について検討する。

(1) 二言語 (多言語) 辞典

英語圏における辞典の萌芽は8世紀の語句集 (glossary) に遡る。その後、15世紀から二言語辞典が登場した。二言語辞典とは、母国語である英語と、ラテン語などの外国語から構成される辞典である。二言語辞典は、各単語の説明は粗略であるが、主たる語義が容易に把握できるという利点がある。表5は、ウースター (Worcester, 1846)、シュタイン (Stein, 1985)、小島 (1999) などを手掛かりに、インターネット・アーカイブ (Internet Archive)、ハーティ・トラスト電子図書館 (Hathi Trust Digital Library) などを利用して確認できた辞典から、sport およびその類義語を抽出して一覧にしたものである。

表5 二言語（多言語）辞典における sport および類義語の語義

出典	言語	語		
1 Anonymous (8th century a)	Latin-English	〔遊戯関係の語なし〕		
2 Anonymous (8th century b)	Latin-English	〔遊戯関係の語なし〕		
3 Galfridus (1440)	English-Latin	Game, pley:ludus, iocus	Pley:ludus, iocus	
4 Anonymous (1483)	English-Latin	Game, ludicurm, ludus	Play, iocus, ioculus, ludus	
5 Palsgrave (1530)	English-French	Game sporte, jeu	Play sport, carolle ; deduit, esbat	Sporte myrthe, soulas, jeu, esbat
6 Anonymous (1532)	Latin-English	Ludus, playe		
7 Eliot (1538)	Latin-English	Infestius, ua, um, vnmete for disporte	Iocus, plurali ioca, a mery worde, disporte	Iocor, aris, ari, to speke merily, or in disport
8 Huloet (1552)	English-Latin	Sporte, iocus	Sporten, iocor	
9 Levens (1570)	English-Latin	Sport, iocus, i, scomma	Sporte, ludere, iocundari	Sportful, iocosus
10 Huloet (1572)	English-Latin and French	Sport, Lusus, sus. m. ge. jeu, esbat & recreation.	Sporte, or to playe. Iocor, caris. Se iouer. S.	Sportfull., Iocosus, a, um. Plein de ieu. S.
11 Baret, et al. (1574)	English-Latin and French	Game, play or pastime.ludus, di iocos	Pastime, sport.lusus, sus. ludus	Sporting game. Ioculariū malum.Terent
12 Cooper (1578)	Latin-English /English-Latin	Iocus, A merry word: disporte: ieste in wordes.	Ludus, Play in actes : sport: game: pastime.	Lusus, A play or sport: dalyng: pastime: recreation.
13 Florio (1598)	Italian-English	Diportare, to disport, to solace, to behave	Diporto, solace, sport, pastime	
14 Cotgrave (1611)	French-English	Deport, disport, sport;pastime, recreation, pleasure	Esbat, sport, pastime, play, recreation, delight, pleasure	Recreation, pastime, sport
15 Sherwood (1632)	English-French	Sport, icu, esbat, recreation, gallerie	Sportfull, recreatif	
16 Holyoke (1639)	Latin-English	Ludus, play in acts, sport, jests, game, pastime	Iocus, a mery word, jest	
17 Phillips (1658)	Latin and French-English	Ludicrous, belonging to sport, recreation, mockery		
18 Howell (1660)	multiple languages	Sport, esbat, passetemps, dedit, divertissement	Sportful, recreatif, divertif;recreatio;recreatio	
19 Blount (1661)	multiple languages	Infestive, unpleasant, nothing sportful.	Ioculatory, merry, pleasant, sporting.	Ludible, apt to play, sportive.
20 Cotgrave (1673)	French-English	Deport, disport, sport;pastime, recreation, pleasure	Esbat, sport, pastime, play, recreation, delight, pleasure	Recreation, pastime, sport, delightful
21 Holyoke (1677)	English-Latin /Latin-English	Sport or disport, ludus, lusus, jocus	to Sport, ludo, jocot, jocular	Sportful, ludicurus
22 Miege (1677)	English-French	Sport, jeu, recreation, plaisir, passetemp	to Sport, ludo, jocot, jocular	
23 Gouldman (1678)	English-Latin	Sport or disport, ludus, lusus, jocus	to Sport, ludo, jocot, jocular	Sportful, ludicurus
24 Coles (1679)	English-Latin	Sport, ludus, lusus, jocus	Sportful, ludicurus, jocosus	
25 Boyer (1699)	French-English	Passetems, pastime, sport, recreation, divertiment	Recréation, recreation, rîfreshment, sport, diversion	
26 Blount (1707)	multiple languages	Divertissement, recreation, sport, pastime	Jovisaunce, joy, sporting	
27 Coles (1711)	English-Latin	Sport, ludus, lusus, jocus	to Sport, ludo, jocor	Sportful, ludicurus, jocosus
28 Stevens (1726)	Spanish-English /English-Spanish	Sport, holgânça, folâz, passatiêmpo	to Sport, holgâr, regozijâr	

スポーツ (sport) の語源および語史を再検討する

出典	言語	語		
29 Boyer (1728)	English-French /French-English	† Disport , passetems, jeu	Sport , jeu, passetemes, divertissement, plaisir, récréation	Sportsman , chasseur
30 Ludwig (1736)	English-German and French	Sport , spiel, zeitvertreib [pastime], schauspiel [play], lust spiel [sexual play], kurzweile [entertain]...; jeu, passetems, divertissement, le plaisir de la chasse		
31 Roderick (1737)	English-Welsh	to Sport , chwareu [to play], bod yn llawen [be joyful], gwentur difyrrwch [entertaining amusement], &c.		
32 Pineda, et al. (1740)	Spanish-English /English-Spanish	Depórt e, diversion, pastime	Sport , holgança	
33 Boyer (1755)	English-French /French-English	Sport , jeu, passetemes, divertissement, plaisir, récréation; hunting, fowling, chasse		Sportsman , chasseur
34 Boyer (1761)	English-French /French-English	Sport [play, pastime] jeu, passetemes, divertissement	Sport [hunting, howling] chasse, le plaisir de la chasse	Sportsman , chasseur
35 Giral del Pino (1763)	Spanish-English /English-Spanish	Sport , holganza, foláz, passa-tiempo	to Sport , holgár, regocijár	
36 Baretti, et al. (1771)	English-Italian	Sport [pastime, diversion] diporto, passatempo	Sport [hunting, fowling, fishing] il piacer della caccia	Sportful , gusioso
37 Ainsworth / Morell (1773)	English-Latin	Sport , ludus jocus, obrectamentum [Note. Exercise of particular games: as for hunting, venatio; for fowling, aucupium; for fishing, piscatio]		
38 Boyer (1773)	English-French /French-English	Sport [play, pastime] jeu, passe-temes, divertissement	Sport [hunting, howling, fishing, &c] le plaisir de la chasse	Sport , jeu, mesures, manège
39 Chambaud / Robinet (1776)	English-French	Sport , jeu, amusement, divertissement, passe-tems	Sport , juer, badiner, folatrer	Sportsman , un chasseur
40 Nugent, et al. (1781)	English-French /French-English	Dispórt , passe-temps	Sport , divertissement, jeu, plaisir	Sportful , folâtre
41 Entick (1792)	Latin-English	Jöcülans , jesting, sporting	Lúdus , play, sport, pastime, game	
42 Boyer (1797)	English-French /French-English	Sport [play, pastime] jeu, passe-temes, divertissement	Sport [hunting, howling] chasse, le plaisir de la chasse	Sportsman , chasseur
43 Baretti (1798)	English-Italian	Sport , diporto, passatempo	Sportsman , cacciatore	

- Anonymous (8th century a) *A late eighth-century Latin-Anglo-Saxon glossary, preserved in the library of the Leiden University (MS. Voss. go lat no. 69)*, Cambridge: University Press, 1906.
- Anonymous (8th century b) *Corpus Glossary*, Cambridge: University Press, 1921.
- Galfridus, R. (1440) *The promptorium parvulorum. The first English-Latin dictionary*. London: Published for the Early English text society by K. Paul, Trench, Trübner, 1908.
- Anonymous (1483) *Catholicon Anglicum, an English-Latin Wordbook, date 1483*. Oxford: Unuversity Press, 1882.
- Palsgrave, J. (1530) *Lesclarcissement de la langue francoyse. repenti* Paris: Imprimerie Nationale, 1852.
- Anonymous (1532) *Ortus vocabulorum: alphabetico ordine fere omnia que in Catholico[n] breuiloquo*. London.
- Elyot, T. (1538) *The dictionary of syr Thomas Eliot knyght*. London. (<http://ota.ox.ac.uk/tcp/headers/A21/A21313.html>)
- Huloet, R. (1552) *Abcedarium Anglico Latinum*. London: Ex officina Gulielmi Riddel.
- Levens, P. (1570) *Manipulus vocabulorum*. repented London: Published for the Early English text society by Trübner, 1867.
- Huloet, R. (1572) *Huloets Dictionarie Newelye Corrected*. Londini: In ædibus Thomæ Marshij.
- Baret, J. et al. (1574) *An aluerie or, Triple dictionarie in Englishe, Latin, and French*. London: By Henry Denham, dwelling in Paternoster-rowe, at the signe of the Starre.
- Cooper, T. (1578) *Thesaurus lingue Romanæ & Britannicæ tam accurate congestus*. London: [By Henry Denham].
- Florio, J. (1598) *A worlde of wordes, or, Most copious, and exact dictionarie in Italian and English*. London: by Arnold Hatfield for Edw. Blount.
- Cotgrave, R. (1611) *A Dictionarie of the French and English Tongues*. London: Adam Islip.
- Sherwood, R. (1632) *A Dictionarie of the French and English Tongues*. London: Adam Islip.
- Holyoke (1639) *Dictionarium etymologicum Latinum, antiquissimum*. London: Felix Kingston.
- Phillips, E. (1658) *The New World of English Words, Or, a General Dictionary Containing the Interpretations of Such Hard Words as Are Derived from Other Languages*. London: printed by E. Tyler.
- Howell, J. (1660) *Lexicon Tetraglotton, an English-French-Italian-Spanish Dictionary*. London: Printed by J. G. for Samuel Thomson.
- Blount, T. (1661) *Glossographia, or, A dictionary interpreting all such hard words of whatsoever language now used in our refined English tongue*. London: Printed by Tho. Newcombe for George Sawbridge.
- Cotgrave, R. (1673) *A French and English dictionary, composed by M^landle Cotgrave with another in English and French*. London: Anthony Dolle.
- Holyoke, T. (1677) *A Large Dictionary: In Three Parts*. London: printed by W. Rawlins, for G. Sawbridge, [etc.]
- Miege, G. (1677) *A New dictionary French and English*. London : T. Dawks.

- 23 Gouldman, F. (1678) *A copious dictionary in three parts 1. the English before the Latin*. Cambridge: John Hayes, printer to the university.
- 24 Coles, E. (1679) *A Dictionary, English-Latin, and Latin-English; containing all things necessary for the translation of either language into the other*. London, Printed by John Richardson.
- 25 Boyer, A. (1699) *The Royal Dictionary. In Two Parts. First, French and English*. vol. I. London: R. Clavel, [etc.]
- 26 Blount, T. (1707) *Glossographia Anglicana Nova: Or, A Dictionary, Interpreting Such Hard Words of Whatever*. London: printed for D. Brown.
- 27 Coles, E. (1711) *A Dictionary, English-Latin, and Latin-English; containing all things necessary for the translation of either language into the other*. London, Printed by Free Collins.
- 28 Stevens, J. (1726) *A New Dictionary, Spanish and English, and English and Spanish*. London: printed for J. Darby, [etc.]
- 29 Boyer, A. (1728) *The royal dictionary abridged : in two parts: I. French and English: II. English and French*. London: printed for J. and J. Knapton, R. Wilkin
- 30 Ludwig, C. (1736) *A Dictionary English, German and French, containing not only the English words in their alphabetical order, together with their several significations*. Leipzig and Frankfurt: published by printed by George Saalbach.
- 31 Roderick, J. (1737) *The English and Welch dictionary, Or, the English Before the Welch*. Shrewsbury: printed by Thomas Durston.
- 32 Pineda, P. et al. (1740) *A new dictionary, Spanish and English and English and Spanish*. London : Printed for F. Gyles
- 33 Boyer (1755) *The royal dictionary abridged : in two parts: I. French and English: II. English and French*. London: printed for Messieurs Innys, Brotherton, Meadows.
- 34 Boyer, A. (1761) *The Royal Dictionary Abridged*. London: printed for Messrs Clarke, [etc.]
- 35 Giral del Pino, H. S. J. (1763) *A Dictionary, Spanish and English, and English and Spanish: containing the signification of words, with their different uses*. London : printed for A. Millar, J. Nourse, and P. Vaillant, in the Strand.
- 36 Baretti, G. M. A. et al. (1771) *A Dictionary of the English and Italian Languages*, vol. II. London: Printed for W. Strahan ; J. and F. Rivington ; W. Johnson.
- 37 Ainsworth, R. and Morell, T. (1773) *Dictionary, English and Latin, a new edition*. London: Rivington.
- 38 Boyer, A. (1773) *The Royal Dictionary, French and English, and English and French*. London: printed for C. Bathurst, [etc.]
- 39 Chambaud, L. and Robinet, J. B. (1776) *A New Dictionary English and French, and French and English*. vol. II. Paris: printed for Panckoucke.
- 40 Nugent, T. et al. (1781) *The new pocket dictionary of the French and English languages, containing all words of general use and authorized by the best of writers*. London : [s. n.]
- 41 Entick, J. (1792) *Entick's new Latin-English dictionary, containing all the words and phrases proper for reading the classics in both languages*. London: printed for Charles Dilly.
- 42 Boyer, A. (1797) *Boyer's Royal Dictionary abridged. In two parts, I. French and English. II. English and French*. London: printed for Messrs. Longman, Law, [etc.]
- 43 Baretti, J. (1798) *A Dictionary Of The English And Italian Languages*, vol. 2. London: printed for B. Law.

表5から、次のことを指摘できる。①15世紀の辞典の見出し語にはsportがない。つまりsportは一般的な語でなかったことが窺える。②sportが見出し語になるのは16世紀以降である。③sportは、ラテン語では主として*iocus*（冗談、悪ふざけ）、*lusus*（あそび、催し物）、*ludus*（あそび、戯れ）の意が与えられる。④同様に、フランス語では*jeu*（あそび）、*esbat*（戯れ）、*recreation*（息抜き）、*passetemes*（暇つぶし）、*divertissement*（気晴らし）の意が与えられる。⑤ドイツ語では*spiel*（あそび）、*zeitvertreib*（暇つぶし）の意が与えられる。⑥1700年代後半から、あそびの他に「狩猟」の意が加わる。

以上から、18世紀までの大部分の人々にとって、sportの語義は「あそび、気晴らし」と捉えさえすれば、概ね通用したことが窺える。sportはまた、「あそび、気晴らし」に加え、一般的な語義として「狩猟」も獲得するが、その時期は1750年前後であったことが推定できる。

(2) 英語辞典

英語辞典は、国民意識の高まりも反映して、17世紀から刊行され始めた。最初は、難語（hard word）ばかりを集めた難語集として誕生したことから、既に普通語（common word）であったsportは、その中に採録されることはなかった。しかし17世紀も後半になると、普通語も網羅する大冊の辞典が刊行されるようになり、sportも少しずつ見出し語に採録され始めた。

表6は、表5と同様の方法により確認できた辞典から、sportおよびその類義語に関する語義を抽出して一覧にしたものである。

スポーツ (sport) の語源および語史を再検討する

表6 英語辞典における sport および類義語の語義

		disport(s.)	disport(v.)	sport(s.)	sport(v.)	game(s.)	diversion(s.)	pastime(s.)	recreation(s.)	etc.
1	Cawdrey (1604)	recreate, refresh, comfort
2	Bullokar (1616)	
3	Cockeram (1623)	
4	Cockeram (1639)	
5	Bulloker (1656)	refreshing, restoring; an exercise for pleasure	
6	Blount (1661)	
7	Coles (1677)	sport	...	deportment	refreshment	Venarie, the sport of hunting
8	Skinner (1689)	...	sport	pass-time	...	sport	...	any recreative exercise to pass away the time	...	
9	Phillips (1706)	divertisement, pastime, recreation	to divert one's self, to take his pleasure	turning aside, or driving another way, recreation, pastime	sport, recreation, divertisement	pleasing divertisement after hard labour; refreshment, pastime, sport	
10	Blount (1707)	pastime, divertisement	to divert one's self, to take his pleasure	refreshing, diverting, delighting	divertisement, recreation, sport, pastime
11	Kersey (1708)	divertisement, pastime	to divert one self, to take his pleasure	turning aside, or driving another way, recreation, pastime	[s] port, recreation	pleasing divertisement after hard labour; refreshment, pastime	
12	Phillips (1720)	divertisement, pastime, recreation	to divert one self, to take his pleasure	turning aside, or driving another way, recreation, pastime	sport, recreation, divertisement	pleasing divertisement after hard labour, refreshment, pastime, sport	
13	Cocker (1724)	refreshment, pleasure, restoration	
14	Bailey (1726)	divertisement, pastime	to divert one self, to take his pleasure	pastime, divertisement	to divert with play, to play	play, sport, divertisement	recreation, pastime; a turning aside from an affair	sport, recreation	pleasing diverticement after labour; refreshment, pastime	
15	Bailey (1731)	sportful, full of play sportive, diverting
16	Kersey (1731)	divertisement, pastime	to divert himself	play, diversion	to play, to toy, to dally	sport	turning aside, pastime	recreation, sport	recreating, refreshment, pastime	
17	Bailey (1736)	divertisement, pastime	to divert one's self with mirth or play	pastime, diversion, also hunting, gaming, fishing	to divert one's self with play, to play	play, sport, divertisement	turning aside, recreation, pastime	divertisement, recreation	pleasing diverticement after hard labour, refreshment	sportful, full of play sportive, diverting

		disport(s.)	disport(v.)	sport(s.)	sport(v.)	game(s.)	diversion(s.)	pastime(s.)	recreation(s.)	etc.
18	Kersey (1739)	divertisement, pastime	to divert himself	play, diversion	to divert one's self	<u>sport</u>	turning aside, pastime	recreation, <u>sport</u>	recreating, refreshment, pastime	
19	Dyche /Pardon (1740)	any sort of play, pastime, recreation, diversion	to amuse or please one's self at some game, diversion, &c.	any sort of <u>sport</u> , diversion, pastime, or pleasure	<u>sport</u> , pastime, recreation, play	any sort of <u>sport</u> , diversion, or recreation	<u>sport</u> , pastime, pleasure, a satisfactory or pleasing amusement	
20	Martin (1749)	pastime, recreation	to take one's pleasure	1.play, pastime. 2.hunting, fowling, fishing. 3.diversion 4.measures, or way of proceeding.	1.to play, to divert one's self. 2.to trifle with	1. <u>sport</u> , pastime. 2.play, as cards, or dice, &c. 3.part of a set at cards. 4.an affair, or intrigue. 5.beasts for hunting, or fowls to shoot at. 6.jests, or squibs	1.going or turning aside. 2.recreation, pastime	<u>sport</u> , recreation	refreshment, pastime	sportful , diverting, gamesome, full of play sportive , some of sportful
21	Wesley (1753)	
22	Johnson (1756)	play, sport, pastime	v.t.to divert v.i.to play, to toy, to wanton	1.play, diversion, game, frolic, tumultuous merriment. 2.mock, contemptuous mirth. 3.that with which one plays. 4.play, idle gingle. 5.diversion of field, as of fowling, hunting, fishing.	v.t.1.to divert, to make merry. 2.to represent by any kind of play. v.i.1.to play, to frolick, to game, to wanton. 2.to trifle	1. <u>sport</u> of any kind. 2.jest, opposed to earnest. 3. insolent merriment, sportive insult. 4. a single match at play, 5.advantage in play. 6.scheme pursued, mesures planned. 7. field <u>sports</u> , as, the chase. 8. animals pursued in the fields. 9.solemn contest exibited as spectacles to the people	1.the act of turning anything off from its course. 2.the cause by which anything is turned from its proper course or tentency. 3. <u>sport</u> , something that unbends the mind.4.[in war]the act or purpose of drawing the enemy off from some design, by threatening or attacking a distant part	<u>sport</u> , amusement, diversion.	1.relief after toil or pain, amusement in sorrow or distress. 2.refreshment, amusement, diversion	sportfull , merry, florick, wanton, ludicrous, done in jest. sportive , gay, merry, florick, wanton, playful, ludicrous. sportsman , one who persues recreations of the field.
23	Kersey (1757)	divertisement, pastime	to divert himself	play, diversion	to play, to toy or dally	pray got by hunting or fowling, <u>sport</u>	turning aside, pastime	recreation, <u>sport</u>	recreating, refreshment, pastime	sportive , or sportful , given to sport, merry
24	Anonymous (1758)	pastime, recreation	...	pastime, recreation, diversion, play, fowling, fishing, hunting	...	1. <u>sport</u> of any kind, 2,jest, opposed to earnest, 3. insolent merriment, a sportive insult, 4. a single match at play, 5. field <u>sports</u> , 6. animals pursued in the fields	1.turning aside 2. recreation	<u>sport</u> , recreation	...	sportsman , one who uses the diversions of the field

スポーツ (sport) の語源および語史を再検討する

		disport(s.)	disport(v.)	sport(s.)	sport(v.)	game(s.)	diversion(s.)	pastime(s.)	recreation(s.)	etc.
25	Rider (1759)	play, sport, pastime, diversion	to amuse or divert	play, diversion, a mock, field diversions	to divert, make merry, represent in play	sport of any kind; a jest, opposed to seriousness or earnest, after make ridicule, or insulting mirth, a single match at play, advantage in play field <u>sports</u> , animals pursued in the fields	the act of turning a thing aside from its course	<u>sport</u> , diversion, amusement	refreshment after toil or weariness, amusement	sportsman , one who delights in hunting or other field diversions
26	Fenning (1771)	play, sport, pastime, diversion	...	play, diversion, a mock, field diversions	to divert, make merry, represent in play	sport of any kind; a jest, opposed to seriousness; to radicule; a single match at play; advantage in play; field <u>sport</u> ; animals pursued in the fields	the act of turning a thing aside from its course	<u>sport</u> , diversion, amusement	refreshment after toil or weariness, amusement	sportsman , one who delights in hunting or other field diversions
27	Barlow (1772)	play, sport, pastime, diversion, fun, mirth	to amuse or divert	play, game, frolic, diversion, a mock, field diversion as hunting, fowling, &c.	to divert, make merry, represent in play	<u>sport</u> , a jest, opposed to earnest, after make ridicule, or insulting mirth, a single match at play, advantage in play field <u>sports</u> , animals pursued in the fields	the act of turning or diverting a thing aside from its course	<u>sport</u> , diversion, pleasure, amusement	refreshment or relief after toil or weariness, amusement, diversion	sportive , gay, merry, wanton, playful sportsman , one who delights in hunting or other diversions of the fields
28	Sheridan (1780)	[Johnson(1756)の語義欄と同じ]								
29	Anonymous (1785)	...	to play, toy, wanton	diversion, hunting, fishing, jest	to game, play, make merry, trifle	sport of any kind, sportive insuit, mockery, animals pursued in the fields	turning aside, <u>sport</u>	<u>sport</u> , diversion, amusement	amusement, diversion	sportful , merry, in jest, frolicsome. Sports'man , one who loves hunting, &c
30	Perry (1788)	play, sport, merriment, pastime	to play, toy, wanton	diversion, fishing, hunting,	to meke merry, to game, trifle	animals pursued in the field, mockery; <u>sport</u> , a single match at play	turning aside, pastime, <u>sport</u>	<u>sport</u> , amusement	amusement	sportful , frolicsome, merry Sportsman , one who loves hunting, &c
31	Sheridan (1789)	[Johnson(1756)の語義欄と同じ]								
32	Walker (1797)	[Johnson(1756)の語義欄と同じ]								

1 Cawdrey, D. (1604) *A Table Alphabetical*, London: printed by I. R. for Edmund Weauer.

2 Bullokar, J. (1616) *An English Expositor, teaching the Interpretation of the hardest Words used in our Language*. London: printed by Iohn Legatt.

3 Cockeram, H. (1623) *The English Dictionarie*. reprinted New York: Huntington Press, 1930.

4 Cockeram, H. (1639) *The English Dictionary, or, An Interpreter of hard English Words enabling as well Ladies and Gentlewomen, Young Scholars, Clerks, merchants*. London: printed by T. Cotes.

5 Bulloker(1656) *An English Expositor, teaching the interpretation of the hardest words used in our language*. London: printed by J. L.

6 Blount, T. (1661) *Glossographia, or, A Dictionary Interpreting all such hard Words of whatsoever Language now used in our refined English tongue with Etymologies*. London: Printed by Tho. Newcombe for George Sawbridge.

7 Coles, E. (1677) *An English dictionary explaining the difficult terms that are used in divinity, husbandry, physick, philosophy, law, navigation, mathematicks, and other arts and sciences*. London: printed for Peter Parker.

- 8 Skinner, S. (1689) *Gazophylacium anglicanum containing the derivation of English words*. London: printed by E. H. and W. H.
- 9 Phillips, E. (1706) *The New World of Words or, Universal English Dictionary*. London: printed for J. Phillips.
- 10 Blount, T. (1707) *Glossographia Anglicana Nova: Or, A Dictionary, Interpreting Such Hard Words of Whatever*. London: Printed for D. Brown.
- 11 Kersey, J. (1708) *Dictionarium Anglo-britannicum, or, A General English Dictionary*. London: printed for J. Wilde.
- 12 Phillips, E. (1720) *The New World of Words or, Universal English Dictionary*. London: printed for J. Phillips.
- 13 Cocker, E. (1724) *Cocker's English Dictionary*. London: Printed for T. Norris.
- 14 Bailey, N. (1726) *An Universal Etymological English Dictionary, comprehending the derivations of the generality of words in the English tongue*. London: Darby.
- 15 Bailey, N. (1731) *The Universal Etymological English Dictionary, containing an Additional Collection Words*. Vol. II. London: printed for Thomas Cox.
- 16 Kersey, J. (1731) *A New English Dictionary, or, a compleat collection of the most proper and significant words, and terms of art, commonly used in the language*. London: printed for Robert Knaplock.
- 17 Bailey, N. (1736) *Dictionarium Britannicum or a More Compleat Universal Etymological English Dictionary Than Any Extant*. London: T. Cox at the Lamb under the Royal-Exchange.
- 18 Kersey, J. (1739) *A New English Dictionary, or, a compleat collection of the most proper and significant words, and terms of art, commonly used in the language*. London: printed for J. and J. Bonwicke
- 19 Dyche, T., and Pardon, W. (1740) *A New General English Dictionary, Peculiarly Calculated for the Use and Improvement of such as are unacquainted with the Learned Languages*. London: Richard Ware.
- 20 Martin (1749) *Lingua Britannica Reformata, or, a New English Dictionary*. London: printed for J. Hodges, [etc.]
- 21 Wesley, J. (1753) *The Complete English Dictionary, Explaining most of those hard Words*. London: printed by W. Strahan.
- 22 Johnson, S. (1756) *A Dictionary of the English language*. 2 vols. London : Printed for J. Knapton, C. Hitch and L. Hawes.
- 23 Kersey, J. (1757) *A New Classical English Dictionary or, A complete collection of most proper and significant Words and terms of art, commonly used in the language*. Dublin: printed by and for S. Powell.
- 24 Anonymous (1758) *A Pocket Dictionary; Or Complete English Expositor Shewing Readily the Part of Speech to which Each Word Belongs*. London: printed for J. Newberry
- 25 Rider, W. (1759) *A New Universal English Dictionary ; or, a compleat treasure of the English Language*. London: printed by W. Griffin for I. Pottinger.
- 26 Fenning, D. (1771) *The Royal English Dictionary, or, A treasury of the english language*. London: printed for L. Hawes, et al.
- 27 Barlow, F. (1772) *The Complete English Dictionary Or, General Repository of the English Language*. 2 vols. London: printed for author.
- 28 Sheridan, T. (1780) *A General Dictionary of the English Language : One main object of which, is, to establish a plain and permanent standard pronunciation*. 2 vols. London : printed for J. Dodsley.
- 29 Anonymous (1785) *A General and Complete Dictionary of the English Language*. London: printed for W. Peacock.
- 30 Perry, W. (1788) *The Royal Standard English Dictionary, in which the words are not only rationally divided into syllables*. London: printed for J. Murray.
- 31 Sheridan, T. (1789) *A Complete Dictionary of the English Language, both with regard to Sound and Meaning*. London: printed for Charles Dilly.
- 32 Walker, J. (1797) *A Critical Pronouncing Dictionary and Expositor of the English Language*. London: sold by Robinson.

表6から、次のことを指摘できる。①英語辞典の見出し語にsportが確実に掲載されるようになるのは、18世紀以降である。②gameには多様な語義があるが、「sport」の語義も必ず与えられる。③diversion, pastime, recreationにも、「sport」の語義が与えられる場合がある。④ベイリー (Bailey, 1736) 以降、sportに狩猟や魚釣の語義が加わる。⑤ジョンソン (Johnson, 1756) は、gameの語義の1つとして「狩猟のような戸外のスポーツ」も加えた。⑥sportと他の類義語を厳密に区別するための基準を見つけ出すことは困難である。⑦例えばジョンソンは、sportの第一義を「play, diversion, game」と、gameの第一義を「sport of any kind」と、pastimeの第一義を「sport, amusement」とする。この表では割愛したが、同様に動詞playの第一義も「to sport」である。⑧つまり、sport, game, pastime, playは語義が重複しており、言語学でいう相互参照性の程度が著しく高かったのである。

阿部 (1976, pp.104-105) は、OEDの分析から、次のような知見を導いた。すなわち、17～18世紀のsportは①野外での気晴らし、特に狩猟と結びつく、②次第に勝負事を伴う賭博と関連する語となる、③他人に誇示する行為、見世物などの要素を含む語となる、以上の3点である。OEDは多様な語義を漏らさず採録することに長所があるが、時代ごとの一般的な語義が何であったのかは見極めにくい。それに対して、本稿のように同時代の辞典をトレースすると、sportの一般的な語義を把握しやすく、その語義は中英語disportの段階から大きく変化していないことがわかる。すなわち、「賭博」や「見世物」といったOEDが採録した語義は必ずしも一般的ではなく、やはり中英語以来の「気晴らし、慰み、あざけり、浮かれ騒ぎ」などが主たる語義であったといえる。ただし一方で、中英語disportにはあった「立ち居ぶるまい、立ち去る」の語義が、近世以降、急速に廃れたことを指摘できる。

おわりに

sportの語源および語史について、OEDの他、これまで日本では参照されなかった多様な史資料に基づき、また古フランス語deport、アングロノルマン語desport、アングロラテン語disportus、古スコツツ語disportなども含めて、従来の研究よりも精密に再検討した。その結果、以下の知見を得た。

①sportの語源に関する見解には、競合する複数の説がある。②日本で知られるラテン語dēportāreを語源とする説は有力な説の1つではあるが、これによって他の説が斥けられたわけではない。③「運ぶ、追放する」を意味するラテン語dēportāreは、俗ラテン語において「楽しみ」の意を派生したと推定すると、deportに対応する語がカタロニア語、イタリア語、ポルトガル語などのロマンス諸語で現れた理由を説明できる。④古フランス語deportは、12世紀中頃の作品に初期の用例があり、意味は主に「喜び、楽しみ、慰み」であったが、惜しむ、好意、縮小、軽く扱う、施す、奪う、免除するなどの意味も派生した。⑤アングロノルマン語において、「楽しみ、喜び」を表す名詞desportは12世紀中頃、動詞desporterは12世紀第4四半期に初例が現れる。その後、アングロノルマン語の衰退する14世紀後半まで、各世紀を通して用例が存在した。⑥「気晴らし」を表すアングロラテン語disportusが、15世紀のイングランドとスコットランドの間で締結された条約に現れた。⑦古英語から中英語に至る期間、「気晴らし、慰み」を表す類義語として、sport (disport) を含めて24語を確認した。⑧『カンタベリー物語』からdisportの用例を21例抽出した。disportは、歌や踊り、賭け事、女遊び、飲酒などによって「楽しみ、喜び、慰みとする」という含意を読み取れた。⑨disportは古スコツツ語にも借入され、初例は1375年である。語義は、同時代の英語disportと大きく変わらない。⑩シェイクスピアの用例の分析により、disportが後退し、sportが優勢になったことを例証した。⑪17世紀以降の辞典を分析することにより、sportの主たる語義が一貫して「気晴らし、慰み」であったこと、また「狩猟」の語義がこれに加わるようになった時期を1750年頃と推定した。

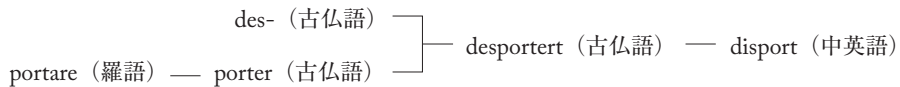
以上を踏まえ、最後にsportの概念史に関わる事柄について指摘する。①中世から近世にかけて、イングランドやスコットランドの人々にとってsportとは（古フランス語deportも同様に）、特定の行為や活動を指示する語ではなく、ほとんどあらゆる楽しみごとや娯楽を包摂する、輪郭の曖昧な語であった。こうした曖昧さは、現在でもスポーツの語義の外延が定まらないことに繋がっている。②sportは（古フランス語deportも）もっぱら大人の気晴らしや楽しみを言い表すために用いられた。この点は、あそびを意味する多くの国の本来語（英語play、フランス語jeu、ドイツ語Spiel、スペイン語jugar^{フガール}、イタリア語giocare^{ジョカーレ}、ロシア語играть^{イグラット}、中国語玩^{ワン}、韓国語놀이^{ノリ}、ベトナム語chơi^{チョイ}、タイ語เล่น^{レン}、日本語あそび、等々）が、幼い子どものあそびも包摂したものと比べると、異質である。

謝辞

ラテン語の理解にあたりご教示頂いた吉沢一也先生、スペイン語の資料の入手と読解についてご協力頂いた岩瀬裕子先生、有益なご指摘を頂いた匿名の査読者、資料収集にご尽力頂いた本学図書館のスタッフの皆様に、心より感謝申し上げます。

註

- 1) 英語圏ではsportの語源および語史に関する専門的な研究を欠く。英語圏のスポーツ辞典やスポーツ事典を見ても、sportについて解説する独立の項目はなく、個別の競技とそれに関連する事柄や有名選手の話題で占められる。日本スポーツ協会に相当する英国の全国統轄組織「スポーツ・イングランド」でも、スポーツとは何かをあえて定義していない。ドイツなどに比べると、アングロサクソンの人々の間では、全体的に基本用語の概念規定に対して関心が薄いように思われる。
- 2) この見解を図解すると、下記ようになる。これによれば、des-とporterから成る語de(s)portareは、あくまでも古フランス語の段階で派生したと推定する。



なお、阿部 (1976,1995) は、*OED*の (disportではなく) dportの語源欄の記述に基づいて、sportの語源がdēportāreであると論じた。しかし、この立論は不適切である。deportとdisportは異なる語であり、しかも*OED*では両語の接頭辞de-とdis-の説明を違えている。それにもかかわらず、阿部はdeportの語源欄の説明を援用することによってsportの語源を論じた。これは明らかに不適切な資料操作である。

- 3) 条約以外にも、14世紀末にオクスフォード大学の庭園がdisportumと呼ばれた例を検索できる。

文献

- 阿部生雄 (1976) スポーツの概念史. 宇都宮大学教養部研究報告 第1部, 9: 99–117.
- 阿部生雄 (1984) スポーツ概念の歴史. 岸野雄三編著, 体育史講義. 大修館書店, pp.120–125.
- 阿部生雄 (1985) スポーツマンシップの近代的語義の成立時期査定のための基礎的研究: 主に英・米・司の辞書を中心に. 宇都宮大学教養部研究報告第1部, 18: 183–214.
- 阿部生雄 (1995) 辞書に見る「スポーツ概念」の日本的受容. 中村敏雄編, 外来スポーツの理解と普及. 創文企画, pp.9–72.
- 阿部生雄 (1996) 体育・スポーツ科学の原点を考える: スポーツの概念史. いばらき健康・スポーツ科学, 15: 57–60.
- 阿部生雄 (2009) 近代スポーツマンシップの誕生と成長. 筑波大学出版会.
- 阿部生雄 (2015) 英米系の辞書・辞典における「スポーツ」の変遷. 中村敏雄ほか編, 21世紀スポーツ大辞典. 大修館書店, pp.5–8.
- Amsler, J. (1958), 'Zur Vorgeschichte des Wortes, Sport,' *Die Leibeserziehung: Monatsschrift für Lehrer und Ärzte für Jugend und Jugendleiter*. 7(11): 357–359.
- Anglo-Norman Dictionary*, <http://www.anglo-norman.net/gate/>
- Ashdowne, R. K. Howlett, D. R. and Latham, R. E. (2018) *Dictionary of Medieval Latin from British Sources*. New York: Oxford University Press.
- Ayto, J. (1990) *Dictionary of Word Origins*. New York: rca Publishing.
- Bailey, N. (1726) *An Universal Etymological English Dictionary, comprehending the derivations of the generality of words in the English tongue*. London: printed for J. Darry, [etc.]
- Bailey, N. (1736) *Dictionarium Britannicum or a More Compleat Universal Etymological English Dictionary Than Any Extant*. London: T. Cox at the Lamb under the Royal-Exchange.
- Bailey, N. (1775) *An Universal Etymological English Dictionary, comprehending the derivations of the generality of words in the English tongue*. 21st edition. London: printed for R. Ware, [etc.]
- Barnhart, R. K. (1988) *Chambers Dictionary of Etymology*. London: Chambers.
- ボー, A. C.・ケイブル, T.: 永嶋大典ほか訳 (1981) 英語史. 大修館書店.

- Bonnaffé, E. (1920) *L'anglicisme et l'anglo-américanisme dans la langue française*. Paris : Delagrave.
- Bradley, H. (1904) *The Making of English*. London : Macmillan.
- British History Online*, <https://www.british-history.ac.uk/>
- ブリュケル, C. : 内海利朗訳 (1997) 語源学 (文庫クセジュ 788). 白水社.
- ブランショ, J.-J. : 森本英夫・大泉昭夫訳 (1999) 英語語源学 (文庫クセジュ 822). 白水社.
- Calvalho, D. (1879) *Classical and Medieval Latin-English Dictionary*. 3 vols. Oxford : Clarendon Press.
- Centre National de Ressources Textuelles et Lexicales*, <http://www.cnrtl.fr/>
- チョーサー : 榊井迪夫訳 (1995) 完訳カンタベリー物語. 岩波書店.
- チョーサー : 笹本長敬訳 (2002) カンタベリー物語 (全訳). 英宝社.
- Constans, L. (1890) *Le roman de Thèbes, publié d'après tous les manuscrits*. Paris : Firmin Didot.
- 出村慎一・村瀬智彦 (2000) 健康・スポーツ科学入門. 大修館書店.
- Diccionario Etymológico español en línea*, <http://etimologias.dechile.net/>
- Dictionary of the Scots Language*, <http://www.dsl.ac.uk/>
- Dubois, J., Mitterrand, H., et Dauzat, A. (2011) *Dictionnaire étymologique et historique du français*. Paris : Editions Larousse.
- Drosdowski, G. (1963) *Duden Etymologie : Herkunftswörterbuch der deutschen Sprache*. Mannheim : Bibliographisches Institut.
- Du Cange (1842) *Glossarium mediae et infimae latinitatis*. Tome 2. Paris : Firmin Didot fratres.
- Gillet, B. (1949) *Histoire du sport* (Que sais-je?, 337). Presses universitaires de France. 近藤等訳 (1952) スポーツの歴史 (文庫クセジュ 55). 白水社.
- Glare, P. G. W. (2012) *Oxford Latin Dictionary*. 2 vols. 2nd edition. Oxford : Oxford University Press.
- Godefroy, F. (1883) *Dictionnaire de l'ancienne langue française et de tous ses dialectes du 9e au 15e siècle*. tome 2. Paris : F. Vieweg.
- Hall, J. C. (1916) *A Concise Anglo-Saxon Dictionary*. New York : Macmillan.
- 原野昇ほか訳 (2000) エネアス物語. 溪水社.
- ヘルマン, J. : 新村猛・国原吉之助訳 (1971) 俗ラテン語 (文庫クセジュ 498). 白水社.
- Hindley, Alan et al. (2000) *Old French-English Dictionary*. Cambridge : Cambridge University Press.
- ホイジンガ, J. : 高橋英夫訳 (1973) ホモ・ルーデンス. 中央公論社.
- 細谷洋子 (2014) 日本体育学会 体育・スポーツ科学情報コラム : スポーツ人類学領域 (https://taiiku-gakkai.or.jp/wp-content/uploads/2014/06/column_09.pdf)
- Interlinear Translations of Some of The Canterbury Tales*, <http://sites.fas.harvard.edu/~chaucer/teachslf/tr-index.htm>
- Internet Archive*, <https://archive.org/>
- Hathi Trust Digital Library*, <https://www.hathitrust.org/>
- Johnson, S. (1756) *A Dictionary of the English language*. 2 vols. London : Printed for J. Knapton, C. Hitch and L. Hawes.
- Jusserand, J. J. (1901) *Les sports et jeux d'exercice dans l'ancienne France*. Paris : Librairie Plon.
- Kelham, R. (1779) *A Dictionary of the Norman or Old French Language*. London : Printed for Edward Brooke, [etc.]
- 岸野雄三 (1970) スポーツとは何か. 日本体育協会監修, 現代スポーツ百科事典. 大修館書店, pp.2-3.
- 岸野雄三 (1972) スポーツの概念. 岸野雄三・多和健雄編, スポーツの技術史. 大修館書店, pp.2-7.
- 岸野雄三 (1977) スポーツ科学とは何か. 朝比奈一男ほか編, スポーツの科学的原理. 大修館書店, pp.77-133.
- Köbler, G. (1995) *Deutsches Etymologisches Wörterbuch*. Tübingen : J. C. B. Mohr UTB.
- 小島義郎 (1999) 英語辞書の変遷 : 英・米・日本を併せて. 研究社.

- 國原吉之助 (2005) 古典ラテン語辞典. 大学書林.
- Littre, E. (1878) *Dictionnaire de la langue française*. tome 2. Paris : Librairie Hachette.
- Löseth, E. (1903) *Robert le Diable : roman d'aventures*. Paris : Firmin-Didot.
- Luitzen, J. et al. (2015) The Introduction and Meaning of the Word Sport in the Netherlands, 1647–1910. *The International Journal of the History of Sport*. 32(11–12). pp.1416–1436.
- 町田健 (2001) アングロ・ノルマン語. 亀井孝・河野六郎・千野栄一編, 言語学大辞典 第5巻: 補遺・言語名索引編. 三省堂, pp.32–34.
- 増田靖弘 (1989) スポーツ語源散策. 東京書籍.
- Mehl, E. (1966), 'Sport' kommt nicht von disportare, sondern von deportare, *Die Leibeserziehung*. 15 : 232–233.
- Middle English Dictionary*, <https://quod.lib.umich.edu/m/med/>
- Moisy, H. (1889) *Glossaire comparatif Anglo-normand*. Caen : H. Delesques.
- Muret, E. (1903) *Le roman de Tristan par Bérout*. Paris : Firmin, Didot et Cie.
- Murray, J. A. H. et al. (1897) *A New English Dictionary*. vol. III. Oxford : Clarendon Press.
- 中島文雄・寺澤芳雄編 (1962) 英語語原小辞典. 研究社.
- 丹羽劭昭 (1979) スポーツの概念. 丹羽劭昭編, 遊戯と運動文化. 道和書院, pp.225–257.
- 小田切毅 (1983) 「スポーツ」の名辞に関する歴史的考察: アメリカのスポーツの歴史的展開に関連して. 体育学研究, 27(4) : 271–279.
- Olivera-Betrán, J. and Torrealbadella-Flix, X. translated Martínez, V. G. (2015) From Sport to Deportare : An Etymological, Semantic and Conceptual Discussion in the Spanish Language. *International Journal of Medicine and Science of Physical Activity and Sport*, vol. 15, núm.57 : 61–91.
- Ortiz, J. P. (2002) *El deporte como juego: un análisis cultural*. Tesis de Doctorado : Universidad de Alicante. (<https://rua.ua.es/dspace/bitstream/10045/10115/1/Paredes-Ortiz-Jesus.pdf>)
- Partridge, E. (1966) *Origins : a Short Etymological Dictionary of Modern English*. London : Routledge & Kegan Paul.
- Percy, T. (1844) *Percy Reliques of Ancient English Poetry: Consisting of Old Heroic Ballads, Songs, and Other Pieces of Our Earlier Poets*. vol.1. London : H. Washburne.
- Perrier, J.-L. ed. (1963) *Le Charroi de Nîmes. Chanson de geste du XIIIe siècle*. Paris : Champion.
- Petiot, G. (1982) *Le Robert Des Sports: Dictionnaire De LA Langue Des Sports*. Paris : Le Robert.
- Piernavieja, M. (1967) “Depuerto”, “Deporte”. *Protohistoria de una palabra*. Madrid : [s.n.].
- ポウブ, M. K : 大高順雄・福井秀加訳 (1980) アングロノルマン語. 研究社.
- Richardson, C. (1838) *A New Dictionary of the English Language, Combining Explanation with Etymology*. 2 vols. London : William Pickering.
- 佐伯聰夫 (1987) スポーツ. 日本体育協会監修, 最新スポーツ大事典. 大修館書店, pp.521–524.
- Salverda de Grave, J. J. (1891) *Eneas, texte critique*. Paris : Halle.
- Schmidt, A. (1902) *Shakespeare-Lexicon*. 2 vols. Berlin : Druck und Verlag von Georg Reimer.
- 下宮忠雄・金子貞雄・家村陸夫編 (1989) スタンダード英語語源辞典. 大修館書店.
- Skinner, S. (1671) *Etymologicon linguae anglicanae; seu, Explicatio vocum anglicarum etymologica ex propriis fontibus, scil. ex linguis duodecim*. Londini : Typis T. Roycroft, & prostant venales apud H. Brome [etc.]
- Skinner, S. (1689) *Gazophylacium anglicanum containing the derivation of English words*. London : printed by E. H. and W. H.
- Skinner, S. (1691) *A New English Dictionary Shewing the Etymological Derivation of the English Tongue*. London : printed for Timoth.
- Sofer, J. (1960), “Kurze Bemerkungen zur Vorgeschichte des Wortes ‘Sport,’ ” *Leibesübungen—Leibeserziehung*. 14 : 13–14.

- 寒川恒夫 (1992) スポーツの民族性と普遍性. サントリー不易流行研究所編, スポーツという文化. TBS プリタニカ. pp.225-240.
- Stein, G. (1985) *The English Dictionary before Cawdrey*. Tübingen : Max Niemeyer Verlag.
- 高橋幸一 (2003) スポーツ学のルーツ : 古代ギリシア・ローマのスポーツ思想. 明和出版.
- 玉木正之 (2013) スポーツ 体罰 東京オリンピック. NHK 出版.
- 田中晏男訳 (1988-1991) 対訳シェイクスピア全集. 全3巻. 山口書店.
- 寺澤芳雄 (1997) 英語語源辞典. 研究社.
- The Historical Thesaurus of English*, <https://ht.ac.uk/>
- Thomas, R. (1991) *Histoire du sport* (Que sais-je?, 337). Presses universitaires de France. 蔵持不三也訳 (1993) スポーツの歴史 (文庫クセジュ 750). 白水社.
- 友添秀則 (1988) スポーツの文化論的探究. 植村典昭ほか編, スポーツと身体運動の科学的探究. 美巧社, pp.2-33.
- 友添秀則 (2015) スポーツの語源. 中村敏雄ほか編, 21世紀スポーツ大辞典. 大修館書店, pp.4-5.
- Webster, N. (1886) *Webster's Complete Dictionary of the English Language*. London : George Bell & Sons.
- Webster, N. (1907) *Webster's International Dictionary of the English Language*. 2 vols. London : George Bell & Sons.
- Weekley, E. (1912) *The Romance of Words*. London : John Murray.
- Worcester, J. E. (1846) *A Universal and Critical Dictionary of the English Language*. Boston : Wilkins, Carter.
- Worcester, J. E. (1888) *Worcester's Academic Dictionary. A new etymological dictionary of the English language*. Philadelphia : J. B. Lippincott company.
- Wörterbuch Wortbedeutung.info*, <https://www.wortbedeutung.info/>
- ザンク, Z.: 岡田真知夫訳 (1994) 古仏語. 白水社.